

高水寺城

第10次・第11次発掘調査報告書

紫波町教育委員会

例 言

1 本書は、岩手県紫波郡紫波町二日町字古館地内に所在する高水寺城（郡山城）遺跡第10次調査・第11次調査についての、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査要項

・第10次発掘調査

調査事由 新古館配水池整備事業に伴う緊急発掘調査

調査期間 平成25年5月9日～平成25年8月23日 調査面積 2,210㎡

・第11次発掘調査

調査事由 愛宕神社の建替えに伴う緊急発掘調査

調査期間 平成25年11月5日～平成25年11月18日 調査面積 138㎡

3 調査主体 紫波町教育委員会 教育長 佐美 淳

調査組織 紫波町教育委員会事務局 教育部長 小田中 健

生涯学習課 課長 高橋 正

室長 谷地 和也

主事 岩館 岳

文化財専門調査員 鈴木 賢治

調査担当及び本書の執筆・編集は、鈴木 賢治が行った。

4 本報告書の作成にあたっては下記の方にご指導、ご協力をいただいた。（五十音順・敬称略）

川又晋（岩手県立博物館）、柴田知二（二戸市教育委員会）、似内啓邦（盛岡市教育委員会）、羽柴直人（岩手県立博物館）、藤澤良祐（愛知学院大学教授）、室野秀文（盛岡市教育委員会）、株式会社プラス測量設計（座標測量・平面実測）。

藤澤良祐教授には、古瀬戸の鑑定をしていただいた。

5 土層図は、堆積の仕方を重視し線の太さを使い分けた。土層層相の色相観察は、小山・竹原著「新版標準土色帖」日本色研事業（株）を使用した。

6 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の5万分の1日誌を使用した。

7 各遺構名と遺構記号は次の通り

遺構名	堅穴住居跡	土坑跡	掘立柱建物跡	柱列跡	遺構不明	柱穴
記号	SI	SK	SB	SA	SX	SP

8 座標数値 基-1 X=-48355.096 Y=29286.765

基-2 X=-48435.297 Y=29268.449

9 発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は、紫波町教育委員会において保管している。

10 現場作業員及び室内整理作業員は、次の方々に参加・協力して頂いた。（五十音順・敬称略）

浅川慶輝、伊藤剛、稲垣淳子、大久保里美、小澤功子、小野翔太、熊谷正男、佐藤清光、高橋洗介、橋孝子、玉懸隆一、戸塚正考、藤尾岳大、藤澤彩、藤原求、松尾尚子、松岡好一、八重樫ひとみ。

目 次

例言	3	第10次調査の概要	9
目次			
本文目次	4	調査の成果	10
挿図目次		(1) 検出遺構	10
写真図版		(2) 出土遺物	27
抄録			
1 遺跡の環境	1	5 第11次調査の概要	36
(1) 位置	1		
(2) 地形と地質	1	6 調査の成果	37
(3) 周辺の遺跡	2	(1) 検出遺構	37
		(2) 出土遺物	41
2 調査の概要	4	7 総括	42
(1) 過去の調査	4		
(2) 調査に至る経過	8		

挿 図 目 次

第1図	高水寺城 位置図 (1 : 50,000)	1
第2図	周辺の遺跡位置図 (1 : 18,000)	3
第3図	高水寺城 第10次・第11次調査 遺構配置図 (1 : 800)	5.6
第4図	高水寺城 調査区域図 (1 : 3,000)	7
第5図	第10次調査区 全体図 (1 : 1,200)	8
第6図	平場 遺構配置地図 (1 : 800)	9
第7図	SI-01竪穴状遺構 平面図・断面図 (1 : 60)	10
第8図	SB-08掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1 : 80)	12
第9図	SB-09掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1 : 120・1 : 50)	13
第10図	SB-010掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1 : 100・1 : 50)	14
第11図	SA-01~SA-04柱列跡 平面図・断面図 (1 : 60)	16
第12図	SK-08・SK-09土坑跡 平面図・断面図 (1 : 50)	17
第13図	SX-03池状遺構跡 平面図・断面図 (1 : 80・1 : 50)	18
第14図	SX-04南東法面 平面図・断面図 (1 : 150・1 : 50)	19
第15図	SX-05北西法面 遺構配置図 (1 : 100)	21
第16図	SB-011掘立柱建物跡・SA-05柱列 平面図・断面図 (1 : 80)	23
第17図	SX-05北西法面 断面図 (1 : 100)	24
第18図	平場 柱穴群 断面図 (1 : 100)	26
第19図	北西法面 柱穴群 断面図 (1 : 100)	26
第20図	出土遺物 ① (1 : 3)	31
第21図	出土遺物 ② (1 : 3)	32

第22図	出土遺物③ (1:3)	33
第23図	出土遺物④ (1:3)	34
第24図	第11次調査区 全体図 (1:600)	35
第25図	遺構配置図 (1:50)	36
第26図	調査区 東壁断面図 (1:50)	38
第27図	P-01~P-09柱穴 平面図・断面図 (1:80・1:60)	39
第28図	出土遺物 (1:3)	41

表 目 次

表1	周辺の遺跡一覧	2
表2	高水寺城 調査回数一覧	4
表3	SI-01、SK-08・SK-09、SX-03・SX-04 注記一覧表	20
表4	SX-05北西法面 注記一覧表	24
表5	平場・北西法面 柱穴計測一覧表	25
表6	出土遺物一覧表①	29
表7	出土遺物一覧表②	30
表8	P-01~P-09柱穴 注記一覧表	40
表9	出土遺物一覧表	41

写 真 図 版

第1図版	高水寺城空撮【国土地理院（昭和28年5月米軍撮影）】
第2図版	高水寺城空撮（平成23年6月撮影）
第3図版	第10次調査区空撮
第4図版	第11次調査区全景、SB-08~SB-010全景①
第5図版	SB-08~SB-010全景②、SB-011、SA-05全景
第6図版	SI-01・SA-01~SA-04全景 断面
第7図版	SK-08断面
第8図版	SX-04全景 断面
第9図版	SX-05南側検出状況 断面
第10図版~第14図版	SX-05出土遺物状況Ⅰ~Ⅴ 作業風景
第15図版~第25図版	第10次調査区 出土遺物①~⑪
第26図版	第11次調査区 断面
第27図版~第31図版	P-01~P-09断面、作業風景
第32図版	第11次調査区 出土遺物
第33図版	弘化三年(1846)二日町新田絵図

(3) 周辺の遺跡

当遺跡の南側に吉兵衛館遺跡、西側に善念寺山古墳遺跡、東側に犬吠森館遺跡などが所在する。また、紫波町内には、県指定史跡である川原毛瓦窯跡、舟久保洞窟、町指定史跡である樋爪館跡、陣ヶ岡陣営跡など貴重な遺跡が多く存在する。

番号	遺跡名	住所地	種別	遺構・遺物
1	陣ヶ岡	宮手字陣ヶ岡	城館跡	縄文土器、空堀、土師器、須恵器、堀、土塁
2	蓮沼Ⅱ	陣ヶ岡字蓮沼	集落跡	土師器、須恵器
3	川原毛瓦窯跡	二日町字川原毛	窯跡	瓦、陶器、窯道具
4	杉の上Ⅲ	二日町字七久保	集落跡	土師器、須恵器
5	高水寺	二日町字古館	散布地	土師器、須恵器
6	河岸場	日詰河川敷内	渡し場跡	
7	犬吠森館（東館）	犬吠森字沼端	城館跡	郭、空堀、土塁
8	日詰七久保	日詰字七久保	散布地	須恵器
9	七久保	日詰字七久保	窯跡	土師器、須恵器
10	善念寺山古墳	二日町字北七久保	墳墓	縄文土器（後～晩期）
11	善念寺山Ⅱ	二日町字北七久保	散布地	縄文土器（中～後期）、石鏃、石匙
12	戸部御所（西御所）	二日町字南七久保	城館跡	陶器
13	吉兵衛館	二日町字向山	城館跡	陶磁器、空堀、土塁
14	高Ⅱ	平沢字高	散布地	土師器
15	桜町下野沢	桜町字下野沢	散布地	土師器
16	日詰下丸森	日詰字下丸森	散布地	土師器
17	平沢越場Ⅱ	平沢字越場	散布地	土師器
18	桜町上野沢	桜町字上野沢	散布地	縄文土器、土師器、須恵器
19	伝平沢館	平沢字館	城館跡	平安
20	日詰牡丹野	日詰字牡丹野	散布地	土師器
21	平沢松田Ⅲ	桜町字中森	散布地	土師器、須恵器
22	田頭	桜町字田頭	散布地	土師器、須恵器
23	平沢境田	平沢字境田	散布地	土師器
24	平沢幅Ⅱ	平沢字幅	散布地	縄文土器、土師器、須恵器
25	星山館	星山字間野村	城館跡	郭、空堀
26	平沢野田Ⅰ	平沢字野田	散布地	縄文土器、土師器、須恵器
27	北日詰外谷地	北日詰字外谷地	散布地	土師器、須恵器
28	北日詰外谷地Ⅰ	北日詰字外谷地	散布地	縄文土器、土師器、須恵器
29	北日詰外谷地Ⅱ	北日詰字外谷地	散布地	縄文土器、石器、土師器
30	大日堂	北日詰字大日堂	集落跡	陶器
31	北日詰城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡	縄文土器、竪穴住居
32	北日詰外谷地Ⅴ	北日詰字外谷地	散布地	土師器、陶器
33	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地	土師器、須恵器
34	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地	土師器、須恵器、かわらけ
35	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地	かわらけ
36	北日詰東ノ坊Ⅱ	北日詰東ノ坊	散布地	土師器
37	北条館	北日詰字城内	城館跡	土師器
38	比爪館	北日詰字箱清水	城館跡	土師器、須恵器、かわらけ、堀
39	北日詰下東ノ坊	北日詰下東ノ坊	散布地	土師器、白磁
40	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地	土師器、須恵器

表1 周辺の遺跡一覧



第2図 周辺の遺跡位置図 (1 : 18,000)

2 調査の概要

(1) 過去の調査

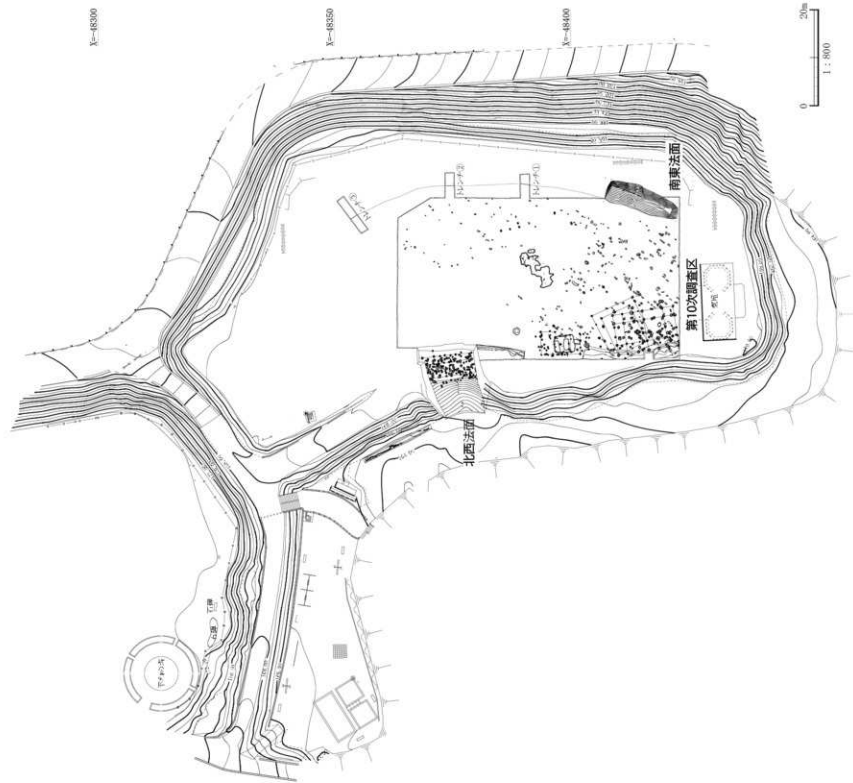
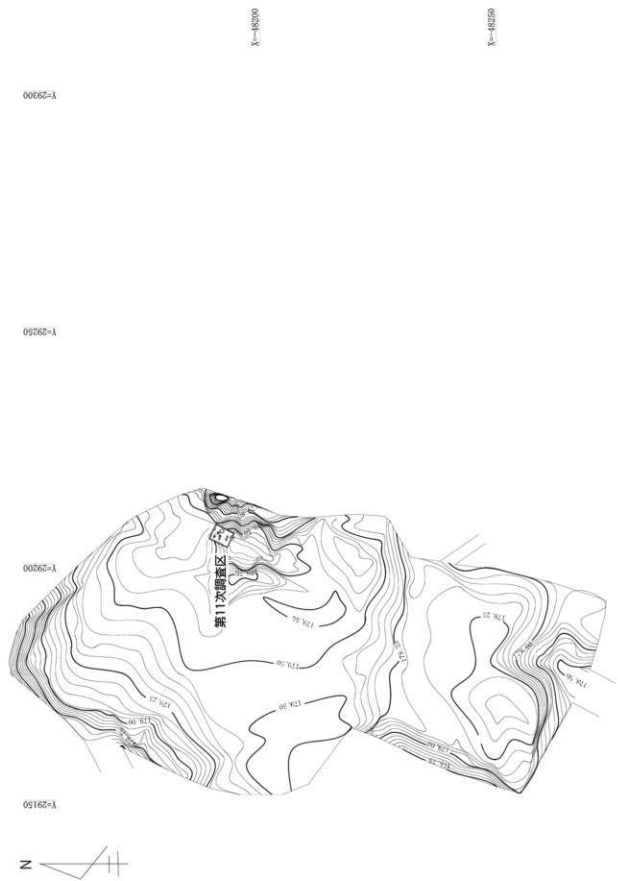
本遺跡は、県内最大規模の城館跡で典型的平山城である。高水寺斯波氏の居城（高水寺城）と南部氏の居城（郡山城）としても周知のところである。

斯波氏は室町幕府の奥州管領を任ぜられた名族で「斯波御所」と尊称された。南部信直の進攻により高水寺斯波氏は滅亡し、天正19年(1591)、高水寺城は郡山城と改称され、盛岡城が築かれるまで南部氏の居城とされた。

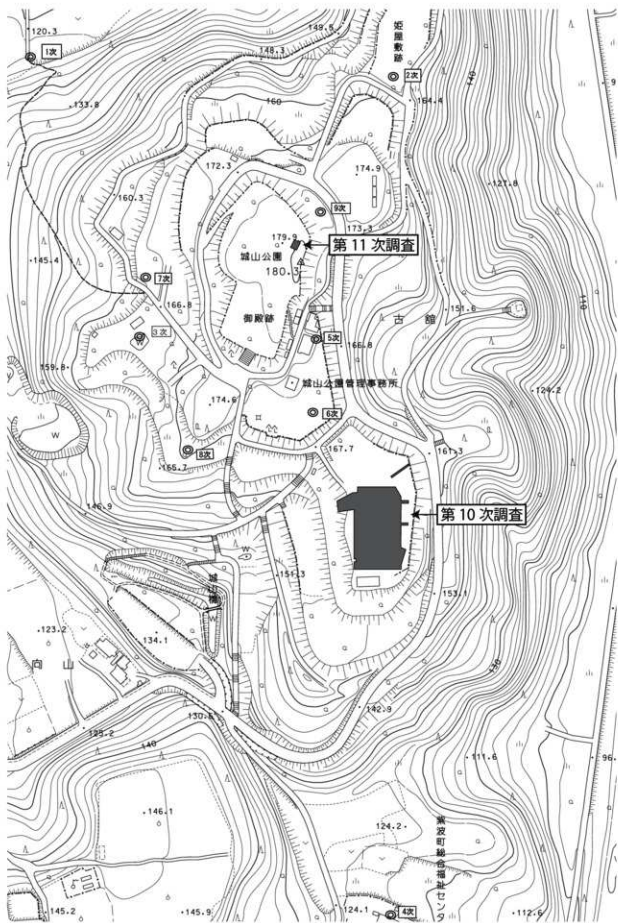
これまでの調査は、第1次調査が昭和48年に、第2次調査が昭和49年に板橋 源氏（岩手大学教授）が学術調査を実施している。その後も紫波町教育委員会が、学術調査及び緊急発掘調査を実施している。これまでに検出された遺構は、掘立柱建物跡7棟、土坑跡7基、溝跡4条、踏石跡1列、堀跡2条、槽跡1基、湧水施設1カ所、柱穴多数、その他などが発見されている。遺物は、国産陶器、瓦、釘、古銭、煙管、香炉、その他、などが出土している。

次数	住 所 地	調査原因	面積	期 間	検出遺構
第1次	紫波町二日町字古館179	学術調査	240㎡	S48.11.10～ S48.11.17	掘立柱建物跡1棟、踏石跡1列、柱穴。
第2次	紫波町二日町字古館46-3	学術調査	360㎡	S49.4.22～ S49.4.29	掘立柱建物跡3棟、堀跡1条、柱穴。
第3次	紫波町二日町字古館	池整備	—	未報告	
第4次	紫波町二日町字古館	役場施設	1,095㎡	未報告	掘立柱建物跡3棟、溝跡4条、土坑跡3基。
第5次	紫波町二日町字古館	公衆便所	—	未報告	なし。
第6次	紫波町二日町字古館	学術調査	25㎡	H5.8.19～ H5.8.31	柱穴。
第7次	紫波町二日町字古館	安全管理	—	未報告	近～現代の湧水施設1カ所。
第8次	紫波町二日町字古館49	学術調査	142.8㎡	H14.10.1～ H14.11.8	土坑跡4基。
第9次	紫波町二日町字古館1-4	学術調査	98㎡	H15.10.13～ H15.11.8	堀跡1条、柱穴。

表2 高水寺城 調査次数一覧



第3図 高水寺城 第10次・第11次調査 遺構配置図 (1:800)

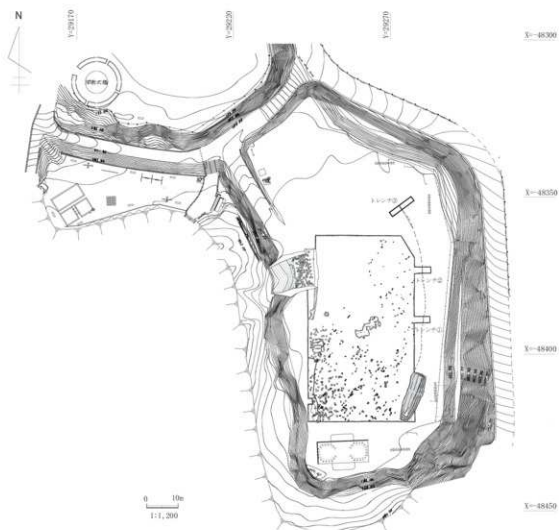


第4図 高水寺城 調査区域図 (1:3,000)
 紫波町都市計画図1/2,500を基に作成

(2) 調査に至る経過

〔第10次調査〕 紫波町水道事業所の新古館配水池整備事業に伴う記録保存調査である。古館配水池（二日町字向山）は付属施設を含めて老朽化が著しく、更新と規模拡大が急務であった。上記を踏まえ、平成22年11月18日付で、紫波町水道事業所から高水寺城遺跡若殿屋敷跡への上水道配水池新設について事前協議があり、同年12月6日にトレンチによる試掘調査を行った。その結果、数口の柱穴が検出され、工事着手前の発掘調査が必要であることが確認された。平成25年4月26日付で、紫波町水道事業所から文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘通知の提出があり、同年5月1日付けで岩手県教育委員会から工事着手前の発掘調査実施について勧告があった。その後、紫波町水道事業所の依頼を受けて、同年5月9日より記録保存調査に着手した。

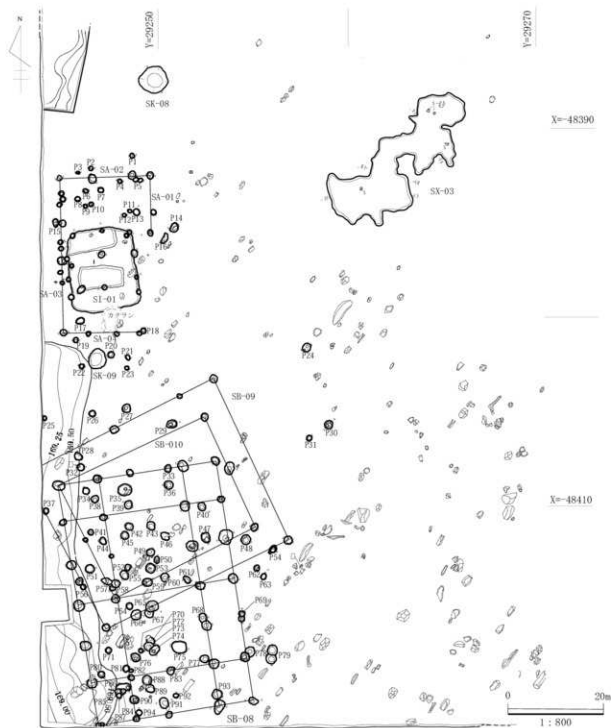
〔第11次調査〕 同遺跡本丸跡に所在する愛宕神社の建替えに伴う記録保存調査である。平成25年8月20日付で愛宕神社総代から文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘届出の提出があり、同年9月26日付で岩手県教育委員会から工事着手前の試掘調査の実施について通知があった。その後、同総代からの依頼を受けて、同年11月5日に試掘調査を実施したところ、遺構等が確認されたため、同日付で記録保存調査に着手した。



第5図 第10次調査区 全体図（1：1,200）

3 第10次調査の概要

- 位 置** 第10次調査区は、高水寺城一ノ郭（御殿跡）南東約200mの二ノ郭（若殿屋敷跡）に位置する。二ノ郭の規模は東西約50m南北約120mであり、今回は、2,210㎡を調査した。
- 検出遺構** 竪穴住居跡1棟、掘立柱建物跡4棟、柱列跡5条、土坑跡2基、不明遺構1基（池状遺構）、南東法面1カ所、北西法面1カ所、柱穴218口を検出した。
- 出土遺物** 古瀬戸陶器、珠洲茶壺、釘、錫製品、中国産磁器・天目茶碗、その他。



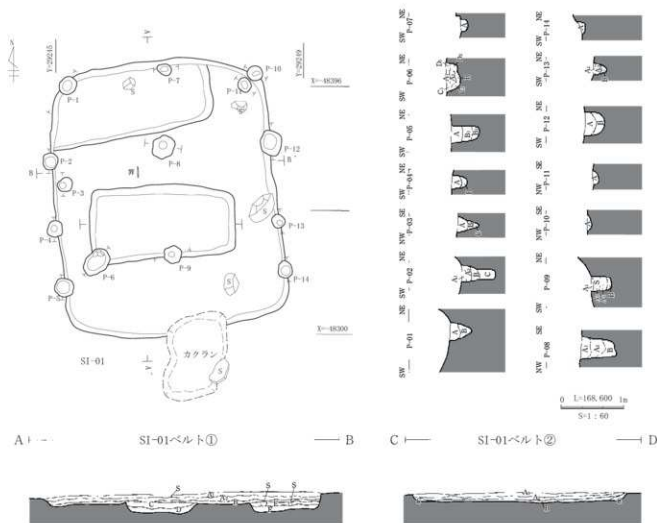
第6図 平場 遺構配置地図 (1:800)

4 調査の成果

(1) 検出遺構

SI-01 竪穴状遺構跡 (第7図)

- 位置** 調査区中央西辺側。 **平面形** 隅丸方形 **主軸方向** N4°W
- 規模** 東西上端3.5m・下端3.3m、南北上端4.4m・下端4.3mをはかる。
- 重複関係** なし。 **掘込面** 削平。 **検出面** にふい黄橙色土(地山)層上層。
- 埋土** 自然堆積。A層～B層の大別し、B層は2層に細分する。A層-暗褐色土、B層-明黄褐色土を主体とする。
- 壁の状況** 検出面から床面までの深さは0.13m～0.18mで、壁は緩やかに立ち上がる。
- 床の状況** はほぼ平坦。にふい黄橙色シルト層を床面としている。
- 付随土坑** 床面から土坑2基を検出。規模は、土坑1-長軸上端2.57m・下端2.28m、短軸上端1.15m・下端0.98m、深さ0.15m。土坑2-長軸上端2.38m・下端2.14m、短軸上端1.18m・下端0.98m、深さ0.16mをはかる。
- 柱穴** 柱穴14口。各柱穴の深さは次の通りである。P1-0.24m、P2-0.48m、P3-0.34m、P4-0.24m、P5-0.44m、P6-0.23m、P7-0.13m、P8-0.49m、P9-0.33m、P10-0.06m、P11-0.31m、P12-0.36m、P13-0.21m、P14-0.06mである。
- 出土遺物** 銅製刀子1点。



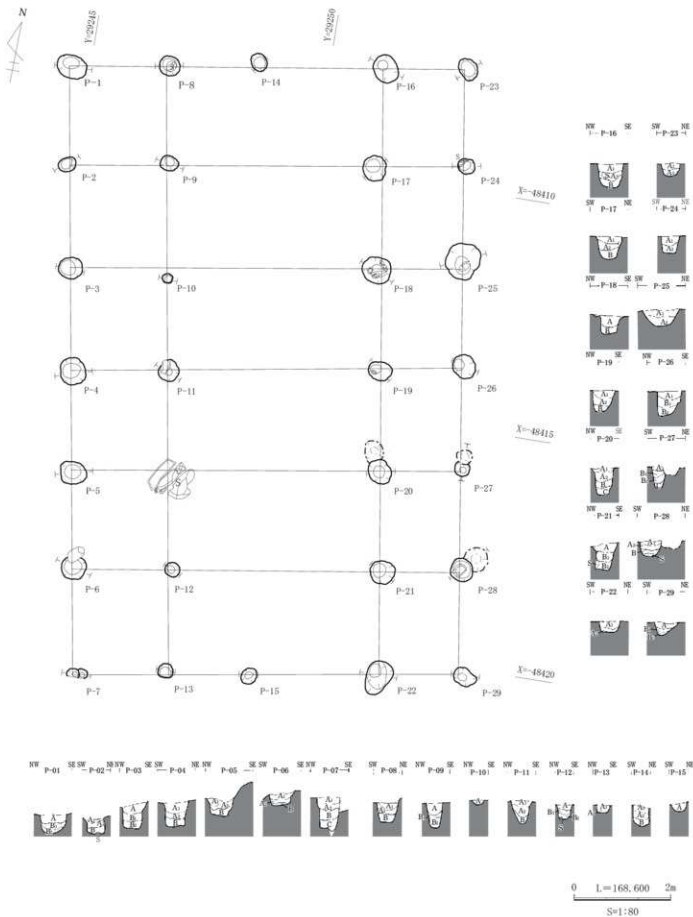
第7図 SI-01竪穴状遺構 平面図・断面図 (1:60)

SB-08 掘立柱建物跡（第8図）

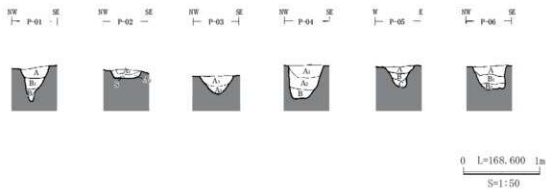
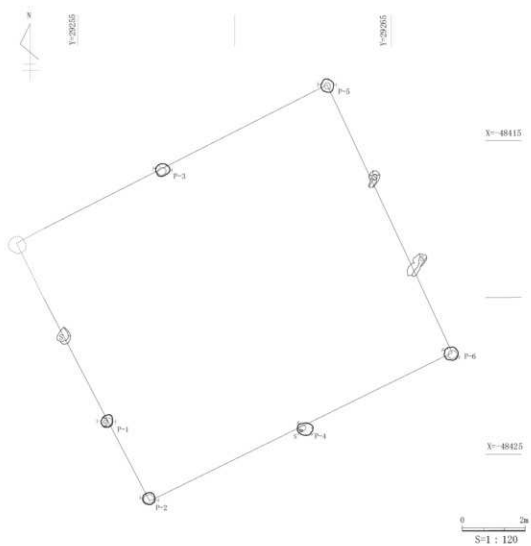
位 置	調査区南西側。
平 面 形	四面庇建物。母屋桁行4間・梁間1間、庇桁行6間・4間（長方形）。
重複関係	SB-09・SB-010掘立柱建物跡と重複するが、柱穴相互の切合いがなく、新旧関係は明確でない。
規 模	母屋南北4間（8.6m・28尺6寸）、東西1間（4.54m・15尺1寸）
棟 方 向	東側柱列でN8°W。
埋 土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。
柱間寸法	西側柱列はP1・P2間-2.42m（8尺）、P2・P3間-1.92m（6尺4寸）、P3・P4-2.1m（7尺）、P4・P5-2.1m（7尺）。東側柱列はP6・P7間-2.21m（7尺4寸）、P7・P8間-2.14m（7尺1寸）、P8・P9間-2.16m（7尺2寸）、P9・P10間-2.2m（7尺3寸）、北側柱列はP11・P6間-4.36m（14尺5寸）、南側柱列はP5・P10間-4.4m（14尺6寸）。庇西側柱列はP11・P12間-2.1m（7尺）、P12・P13間-2.3（7尺6寸）、P13・P14間-2.18m（7尺3寸）、P14・P15間-2.16m（7尺2寸）、P15・P16間-2.0m（6尺7寸）、P16・P17間-2.22m（7尺4寸）。庇東側柱列はP24・P25間-2.1m（7尺）、P25・P26間-2.13m（7尺1寸）、P26・P27間-2.18m（7尺3寸）、P27・P28間-2.17m（7尺6寸）、P11・P18間-2.18m（7尺2寸）、P29・P30間-2.26m（7尺5寸）。庇北側柱列はP25・P26間2.12m（7尺）、P18・P20間-1.92m（6尺4寸）、P20・P22間-2.54m（8尺5寸）、P22・P24間-1.8m（6尺）、庇北側柱列はP17・P19間-1.74m（5尺8寸）、P19・P21間-1.98m（6尺6寸）、P21・P23間-2.18m（7尺3寸）、P23・P30間-1.73（5尺7寸）である。
柱 穴	各柱穴の深さは次の通りである。P1-0.51m、P2-0.09m、P3-0.49m、P4-0.31m、P5-0.48m、P6-0.39m、P7-0.48m、P8-0.56m、P9-0.56m、P10-0.39m、P11-0.30m、P12-0.48m、P13-0.48m、P14-0.31m、P15-0.22m、P16-0.66m、P17-0.40m、P18-0.16m、P19-0.25m、P20-0.16m、P21-0.48m、P22-0.22m、P23-0.28m、P24-0.35m、P25-0.32m、P26-0.51m、P27-0.45m、P28-0.32m、P29-0.27mをはかる。
出土遺物	なし。

SB-09 掘立柱建物跡（第9図）

位 置	調査区南西側。	平 面 形	母屋桁行3間・梁間2間（長方形）。
重複関係	SB-08掘立柱建物跡と重複するが、柱穴相互の切合いがなく、新旧関係は明確でない。		
規 模	母屋南北3間（9.2m・30尺6寸）・東西2間（11.1m・37尺）。		
棟 方 向	東側柱列でN12°W。		
埋 土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。		
柱間寸法	西側柱列はP1・P2間-2.88m（9尺6寸）、東側柱列はP5・P6間-9.42m（31尺4寸）、北側柱列はP3・P5間-5.89m（19尺6寸）、南側柱列はP2・P4間-5.32（17尺7寸）、P4・P6間-5.34（17尺8寸）である。		
柱 穴	各柱穴の深さは次の通りである。P1-0.13m、P2-0.11m、P3-0.2m、P4-0.48m、P5-0.27m、P6-0.32mをはかる。		
出土遺物	なし。		



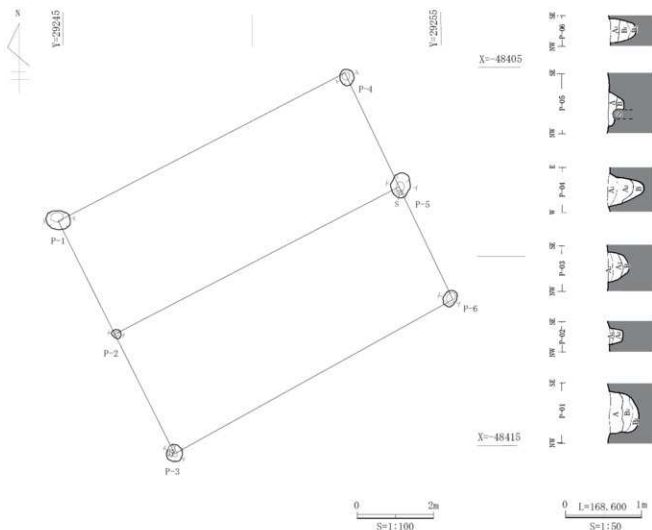
第 8 图 SB-08 掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:80)



第9图 SB-09掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:120・1:50)

SB-010 掘立柱建物跡 (第10図)

- 位置 調査区南西側。 平面形 母屋桁行2間・梁間1間(長方形)。
 重複関係 SB-08掘立柱建物跡と重複するが、柱穴相互の切合いがなく、新旧関係は明確でない。
 規模 母屋南北2間(6.86m・22尺8寸)・東西1間(8.48m・28尺2寸)。
 柱間寸法 西側柱列はP1・P2間—3.38m(11尺2寸)、P2・P3間—3.48m(11尺6寸)、東側柱列はP4・P5間—3.29m(10尺9寸)、P5・P6間—3.22m(10尺7寸)、北側柱列はP1・P4間—8.45m(28尺2寸)、南側柱列はP3・P6間—8.44m(28尺1寸)である。
 棟方向 東側柱列でN25°W。
 埋土 自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。
 柱穴 各柱穴の深さは次の通りである。P1-0.39m、P2-0.21m、P3-0.49m、P4-0.35m、P5-0.20m、P6-0.28mをはかる。
 出土遺物 なし。



第10図 SB-010掘立柱建物跡 平面図・断面図 (1:100・1:50)

SA-01 柱列跡 (第11図)

位置	調査区中央西側。	重複関係	SA-02と重複。	掘込面	削平。
規模	南北に3.08m (10尺2寸)、3間。				
柱間寸法	P-1・P-2間—1.07m (3尺6寸)、P-2・P-3間—1.98m (6尺6寸)である。				
埋土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。				
柱穴	各柱穴の深さは次の通りである。P-1-0.10m、P-2-0.26m、P-3-0.27mをはかる。				
出土遺物	なし。				

SA-02 柱列跡 (第11図)

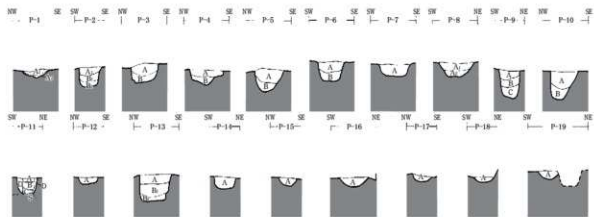
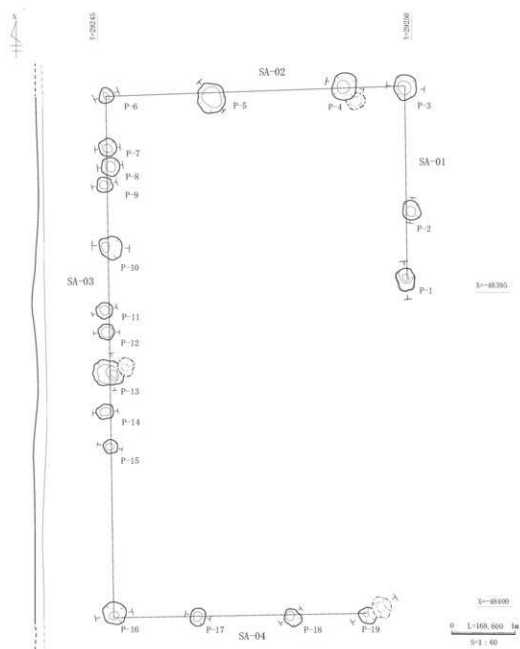
位置	調査区中央西側。	重複関係	SA-01・SA-03と重複。	掘込面	削平。
規模	東西に4.76m (15尺8寸、3間)。				
柱間寸法	P-3・P-4間—0.94m (3尺1寸)、P-4・P-5間—2.09m (6尺9寸)、P-5・P-6間—1.6 (5尺4寸)である。				
埋土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。				
柱穴	各柱穴の深さは次の通りである。(P-3-0.49m) P-4-0.31m、P-5-0.20m、P-6-0.31mをはかる。				
出土遺物	なし。				

SA-03 柱列跡 (第11図)

位置	調査区中央西側。	重複関係	SA-02・SA-04と重複。	掘込面	削平。
規模	南北に8.84m (29尺4寸)、10間。				
柱間寸法	P-6・P-7間—0.79m (2尺6寸)、P-7・8間—0.28m (9寸)、P-8・P-9間—0.29m (8寸)、P-9・P-10間—0.92m (3尺)、P-10・P-11間—0.96m (3尺2寸)、P-11・P-12間—0.28m (9寸)、P-12・P-13間—0.62m (2尺)、P-13・P-14間—0.61m (2尺)、P-14・P-15間—0.52m (1尺7寸)、P-15・P-16間—2.58m (9尺3寸)である。				
埋土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。				
柱穴	各柱穴の深さは次の通りである。(P-6-0.49m) P-7-0.29m、P-8-0.30m、P-9-0.36m、P-10-0.35m、P-11-0.21m、P-12-0.10m、P-13-0.35m、P-14-0.17m、P-15-0.11m、P-16-0.12mをはかる。				
出土遺物	なし。				

SA-04 柱列跡 (第11図)

位置	調査区中央西側。	重複関係	SA-03と重複。	掘込面	削平。
規模	東西に4.26m (14尺2寸)、3間。				
柱間寸法	P-16・P-17間—1.26m (4尺2寸)、P-17・18間—1.48m (4尺9寸)、P-15・P-16間—1.18m (3尺9寸)である。				
埋土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。				
柱穴	各柱穴の深さは次の通りである。(P-16-0.12m) P-17-0.08m、P-18-0.06m、P-19-0.10mをはかる。				
出土遺物	なし。				



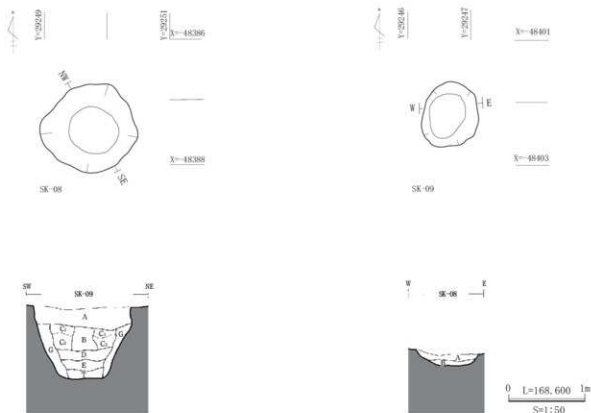
第11图 SA-01~SA-04柱列跡 平面図・断面図 (1:60)

SK-08 土坑跡 (第12図)

- 位置 調査区中央西側。 平面形 不整円形。 重複関係 なし。
 規模 上端1.48m～1.39m、下端0.82m～0.78mをはかる。
 掘込面 削平。 検出面 におい黄橙色土層(地山)直上。
 埋土 人為堆積でA層～F層に大別され、C層は2層に細分する。A層・B層・D層・G層におい黄褐色土は～明黄褐色土を主体とし、C層・E層・F層は、褐色土～暗褐色土を主体とする。
 壁の状況 検出面から底面の深さは0.92mをはかる。壁はほぼ直壁である。
 出土遺物 なし。

SK-09 土坑跡 (第12図)

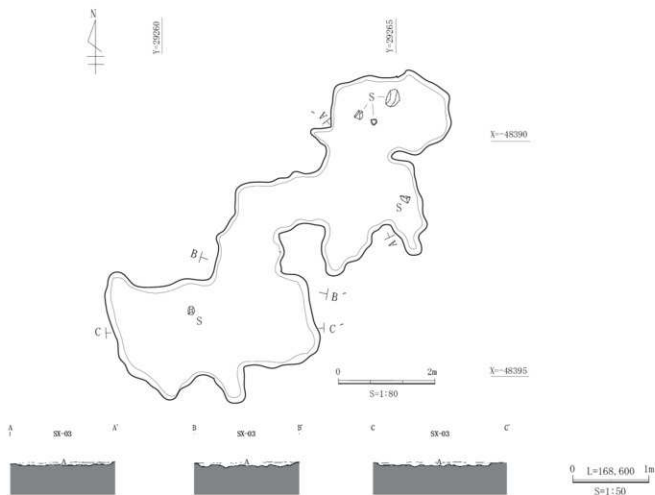
- 位置 調査区中央西側。 平面形 不整円形。 重複関係 なし。
 規模 上端1.02m～0.84m、下端0.73m～0.38mをはかる。
 掘込面 削平。 検出面 におい黄橙色土層(地山)直上。
 埋土 自然堆積でA層～C層に大別され、A層は2層に細分する。A層～D層はにおい黄褐色土を主体とする。
 壁の状況 検出面から底面の深さは0.38mをはかる。壁は外傾して立ち上がる。
 出土遺物 なし。



第12図 SK-08・SK-09土坑跡 平面図・断面図 (1:50)

SX-03 池状遺構跡 (第13図)

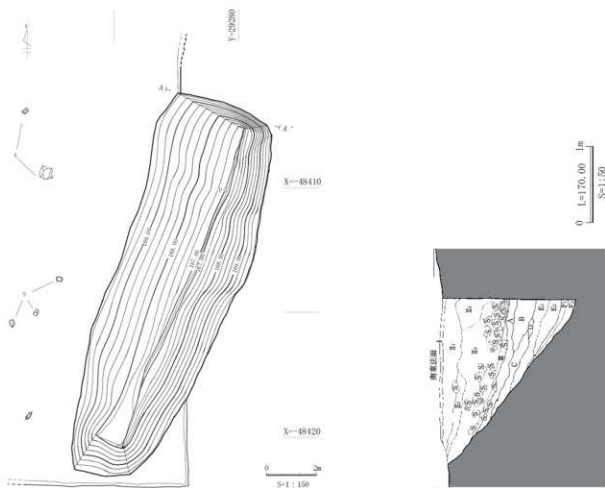
位置 調査区中央。 平面形 不整形。 重複関係 なし。
 掘込面 削平。 検出面 におい黄橙色土層(地山)直上。
 規模 上端8.92m~1.78m、下端8.79m~0.76mをはかる。
 埋土 自然堆積。A層(単層)。A層は、暗褐色土~褐色土を主体とする。
 床の状態 凹凸が著しい。
 壁の状態 検出面から底面の深さは0.12m~0.10mをはかる。壁は外傾して立ち上がる。
 出土遺物 なし。



第13図 SX-03池状遺構跡 平面図・断面図 (1:80・1:50)

SX-04 南東法面 (第14図)

位置	調査区南東側。	重複関係	なし。
掘込面	削平。	検出面	にぶい黄橙色土層(地山)直上。
埋土	人為堆積。A層～F層に大別し、E層・F層は2層に細分する。A層・E層は、にぶい黄褐色土を主体とし、C層・F層は黒褐色土主体とする。		
法面の状態	急な斜面。		
出土遺物	古瀬戸の折縁深皿、祖母懷茶壺、中国産天目茶碗。		



第14図 SX-04南東法面 平面図・断面図 (1:150・1:50)

SI-01 (鑿穴状遺構)

A 1 層	にぶい黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。
A 2 層	にぶい黄橙色土を主体に、黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。
B 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状から粒状に締まりは中。
C 層	にぶい黄橙色土を主体に、灰黄褐色土を粒状から塊状に締まりは中。
D 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄橙色土を粒状から塊状に締まりは強。
E 層	にぶい黄橙色土を主体に、黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。

SK-08 (土坑跡)

A 層	にぶい黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。
B 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状から粒状に締まりは中。
C 1 層	褐色土を主体に、暗褐色土を粉状から粒状に締まりは中。
C 2 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状から塊状に締まりは中。
D 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状から粒状に締まりは中。
E 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状から塊状に締まりは中。
F 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状から塊状に締まりは中。
G 層	にぶい黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。

SK-09 (土坑跡)

A 1 層	にぶい黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。
A 2 層	明黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状から粒状に締まりは中。
B 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状から粒状に締まりは中。
C 層	にぶい黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。

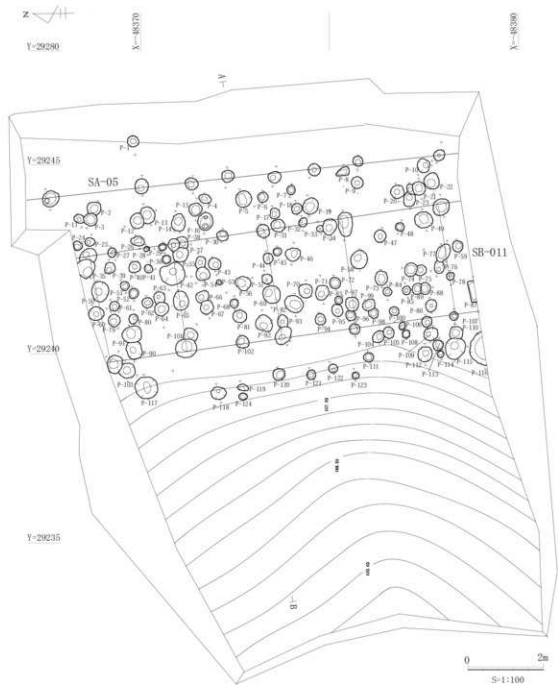
SX-03 (池状遺構跡)

A 層	にぶい黄橙色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。
-----	---------------------------------

SX-04 (南東法面)

I 層	暗褐色土を主体。現代の表土。
II 1 層	にぶい黄橙色土を主体。近代の造成土。
II 2 層	にぶい黄橙色土を主体。近代の造成土。
II 3 層	にぶい黄橙色土を主体。近代の造成土。
III 層	にぶい黄褐色土を主体。中世時代の造成土。
A 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。
B 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状から粒状に締まりは強。
C 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状から塊状に締まりは中。
D 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状から塊状に締まりは中。
E 1 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状から塊状に締まりは強。
E 2 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粉状から粒状に陶器を含み締まりは強。
F 1 層	黒褐色土を主体に、暗褐色土を粉状から粒状に陶器を含み締まりは中。
F 2 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状から粒状に締まりは中。

表 3 SI-01、SK-08・SK-09、SX-03・SX-04 注記一覧表



第15圖 SX-05北西法面 遺構配置圖 (1 : 100)

SX-05 北西法面 (第15図)

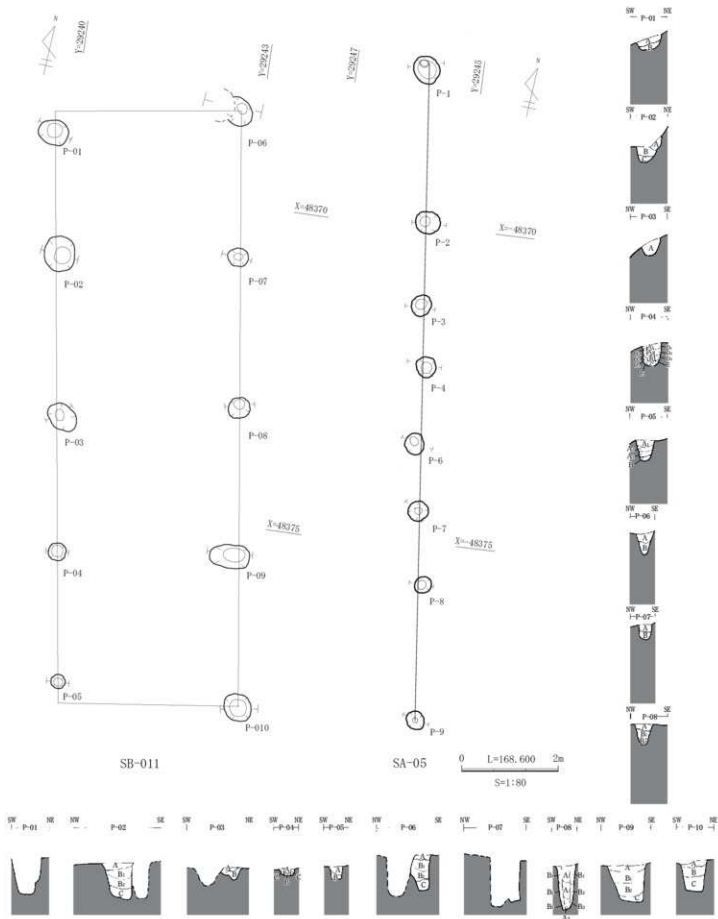
位置	調査区北西側。	重複関係	なし。
掘込面	削平。	検出面	にぶい黄橙色土層(地山)直上。
埋土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。中層に炭化層を含む。		
法面の状態	急な斜面から中斷に平場を持ち、さらにやや急な斜面になる。		
出土遺物	古瀬戸・珠洲の陶器、中国産磁器、釘、瓦器、壺、石製品、かわらけ、錫製品、古銭、その他が出土した。		

SB-011 掘立柱建物跡 (第16図)

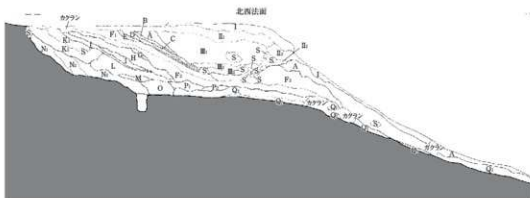
位置	調査区北西側法面。	平面形	母屋桁行4間・梁間1間(長方形)。
重複関係	SB-01掘立柱建物跡と重複するが、柱穴相互の切合いがなく、新旧関係は明確でない。		
棟方向	東側柱列でN25°W。		
埋土	にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。		
柱間寸法	西側柱列はP-1・P-2間-2.28m(7尺6寸)、P-2・P-3間-2.48m(8尺2寸)、P-3・P-4間-2.09m(6尺9寸)、P-4・P-5間-2.07m(6尺9寸)、東側柱列はP-6・P-7間-2.31m(7尺7寸)、P-7・P-8間-2.32m(7尺7寸)、P-8・P-9間-2.40m(8尺)、P-9・P-10間-2.28m(7尺6寸)、北側柱列はP-5・P-10間-8.45m(28尺2寸)、南側柱列はP-1・P-6間-9.8m(9尺9寸)である。		
柱穴	各柱穴の深さは次の通りである。P-1-0.24m、P-2-0.56m、P-3-0.20m、P-4-0.11m、P-5-0.22m、P-6-0.55m、P-7-0.66m、P-8-0.70m、P-9-0.56m、P-10-0.48mをはかる。		
出土遺物	P2から、かわらけ片1点。		

SA-05 柱列跡 (第16図)

位置	調査区南西側法面。	重複関係	なし。
規模	10.38m(34尺6寸)南北に7間。		
柱間寸法	西側柱列はP1・P2間-2.8m(7尺6寸)、P2・P3間-4.8m(8尺2寸)、P3・P4間-0.9m(6尺9寸)、P4・P5間-0.7m(6尺9寸)、東側柱列はP6・P7間-3.1m(7尺7寸)、P7・P8間-3.2m(7尺7寸)、P8・P9間-4.0m(8尺)、P9・P10間-2.8m(7尺6寸)、北側柱列はP1・P4間-4.5m(28尺2寸)、南側柱列はP3・P6間-4.4m(28尺1寸)である。南側柱列はP1・P6間-9.8m(9尺9寸)である。		
埋土	自然堆積。にぶい黄橙色土～褐色土を主体とする。		
柱穴	各柱穴の深さは次の通りである。P1-0.29m、P2-0.25m、P3-0.22m、P4-0.33m、P5-0.32m、P6-0.33m、P7-0.25m、P8-0.34mをはかる。		
出土遺物	錫製品。		



第16图 SB-011掘立柱建物跡・SA-05柱列 平面図・断面図 (1:80)



第17図 SX-05北西法面 断面図 (1:100)

SX-05北西法面ベルト

I 層	現代の表土。
II 1 層	近代の耕作、運動場時の造成。地山ブロック多く含む。
II 2 層	近代の耕作、運動場時の造成。地山ブロック多く含む。
III 1 層	中世時の造成。
III 2 層	中世時の造成。
III 3 層	中世時の造成。
A 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
B 層	黒褐色土を主体に、灰黄褐色土を粉状～粒状に陶器・釘、大量のカーボンと灰を少し含み締まりは中。
C 層	褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状に陶器・釘、カーボン・灰を多く含み締まりは弱。
D 層	黒色土を主体に、灰黄褐色土を粉状～粒状に少量の土器とカーボンと灰を少し含み締まりは中。
E 層	灰黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に釘とカーボンと灰を少し含み締まりは中。
F 1 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
F 2 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは強。
F 3 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは強。
G 層	にぶい黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは強。
H 層	黒色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に陶器・釘とカーボンを含み締まりは弱。
I 層	にぶい赤褐色土を主体に、黒色土を粉状～粒状に陶器・釘・石製品とカーボンを含み締まりは中。
J 層	黒色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状にカーボンを含み締まりは弱。
K 1 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
K 2 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
L 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
M 層	黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
N 1 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
N 2 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
N 3 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
O 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは強。
P 1 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
P 2 層	明黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
Q 1 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状に締まりは強。
Q 2 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状に締まりは強。

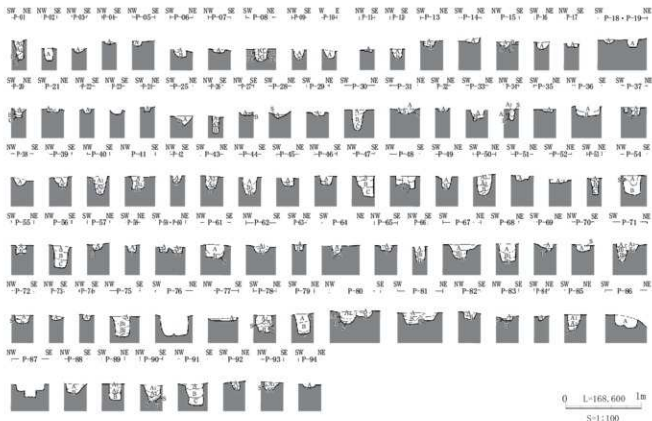
表 4 SX-05北西法面 注記一覧表

柱穴群 平場・北西法面 (表5・第18・19図)

第10次調査区内では、平場から94口、北西法面から124口の柱穴が検出された。埋土にはぶい黄褐色土を主体とするものが多い。以下は各柱穴の幅と深さをまとめて一覧表にした。

高水寺城曲輪 (広場)						高水寺城北西法面								
No.	幅 (m)	深さ (m)	No.	幅 (m)	深さ (m)	No.	幅 (m)	深さ (m)	No.	幅 (m)	深さ (m)	No.	幅 (m)	深さ (m)
P 1	0.25	0.46	P48	0.36	0.31	P 1	0.20	0.27	48	0.25	0.02	P95	0.22	0.16
P 2	0.22	0.33	P49	0.40	0.53	P 2	0.30	0.07	49	0.18	0.17	P96	0.28	0.21
P 3	0.30	0.10	P50	0.37	0.15	P 3	0.23	0.07	50	0.42	0.56	P97	0.26	0.09
P 4	0.28	0.50	P51	0.47	0.08	P 4	0.39	0.47	51	0.53	0.68	P98	0.25	0.29
P 5	0.23	0.13	P52	0.21	0.43	P 5	0.27	0.27	52	0.23	0.23	P99	0.34	0.20
P 6	0.34	0.31	P53	0.48	0.51	P 6	0.23	0.12	53	0.23	0.03	P100	0.30	0.04
P 7	0.35	0.08	P54	0.32	0.21	P 7	0.22	0.13	54	2.90	0.48	P101	0.45	0.24
P 8	0.36	0.32	P55	0.44	0.43	P 8	0.30	0.34	55	0.40	0.46	P102	0.32	0.28
P 9	0.30	0.29	P56	0.26	0.13	P 9	0.18	0.18	56	0.51	0.55	P103	0.47	0.51
P10	0.30	0.20	P57	0.23	0.17	P10	0.28	0.15	57	0.25	0.30	P104	0.25	0.18
P11	0.24	0.07	P58	0.61	0.13	P11	0.26	0.14	58	0.40	0.74	P105	0.23	0.42
P12	0.27	0.24	P59	0.49	0.35	P12	0.20	0.02	59	0.50	0.05	P106	0.19	0.07
P13	0.29	0.14	P60	0.43	0.20	P13	0.21	0.35	60	0.30	0.51	P107	0.29	0.17
P14	0.38	0.12	P61	0.23	0.14	P14	0.18	0.12	61	0.20	0.52	P108	0.17	0.09
P15	0.43	0.17	P62	0.25	0.27	P15	0.34	0.05	62	0.25	0.39	P109	0.21	0.26
P16	0.32	0.18	P63	0.32	0.12	P16	0.41	0.40	63	0.23	0.08	P110	0.32	0.16
P17	0.29	0.08	P64	0.28	0.40	P17	0.22	0.18	64	0.27	0.52	P111	0.25	0.14
P18	0.29	0.20	P65	0.76	0.36	P18	0.28	0.22	65	0.26	0.77	P112	0.12	0.29
P19	0.22	0.22	P66	0.43	0.47	P19	0.37	0.28	66	0.50	0.68	P113	0.25	0.19
P20	0.32	0.08	P67	0.38	0.18	P20	0.30	0.54	67	0.42	0.61	P114	0.18	0.17
P21	0.20	0.11	P68	0.40	0.17	P21	0.29	0.18	68	0.34	0.38	P115	0.53	0.41
P22	0.33	0.12	P69	0.36	0.17	P22	0.34	0.28	69	0.20	0.40	P116	0.69	0.15
P23	0.18	0.10	P70	0.39	0.21	P23	0.22	0.45	70	0.45	0.70	P117	0.53	0.41
P24	0.49	0.25	P71	0.28	0.10	P24	0.22	0.36	71	0.33	0.43	P118	0.32	0.26
P25	0.20	0.41	P72	0.20	0.12	P25	0.21	0.28	72	0.36	0.31	P119	0.28	0.20
P26	0.30	0.06	P73	0.46	0.54	P26	0.28	0.08	73	0.26	0.08	P120	0.29	0.06
P27	0.40	0.10	P74	0.37	0.52	P27	0.28	0.12	74	0.38	0.03	P121	0.24	0.13
P28	0.36	0.10	P75	0.70	0.07	P28	0.15	0.16	75	0.32	0.04	P122	0.23	0.08
P29	0.40	0.53	P76	0.38	0.28	P29	0.20	0.16	76	0.26	0.39	P123	0.17	0.09
P30	0.52	0.15	P77	0.43	0.52	P30	0.38	0.62	77	0.40	0.29	P124	0.16	0.15
P31	0.30	0.05	P78	0.39	0.17	P31	0.28	0.48	78	0.29	0.06			
P32	0.36	0.23	P79	0.50	0.29	P32	0.36	0.40	79	0.40	0.50			
P33	0.14	0.29	P80	0.30	0.19	P33	0.24	0.08	80	0.25	0.46			
P34	0.38	0.07	P81	0.34	0.10	P34	0.20	0.34	81	0.27	0.36			
P35	0.65	0.29	P82	0.18	0.10	P35	0.40	0.45	82	0.29	0.05			
P36	0.44	0.21	P83	0.34	0.41	P36	0.23	0.15	83	0.17	0.05			
P37	0.36	0.17	P84	0.25	0.27	P37	0.25	0.31	84	0.36	0.26			
P38	0.36	0.26	P85	0.30	0.33	P38	0.60	0.60	85	0.25	0.24			
P39	0.38	0.48	P86	0.22	0.16	P39	0.27	0.26	86	0.24	0.02			
P40	0.35	0.34	P87	0.22	0.16	P40	0.26	0.31	87	0.19	0.07			
P41	0.24	0.18	P88	0.40	0.27	P41	0.20	0.07	88	0.26	0.31			
P42	0.32	0.36	P89	0.31	0.43	P42	0.68	0.58	89	0.23	0.08			
P43	0.39	0.45	P90	0.43	0.40	P43	0.35	0.45	90	0.55	0.18			
P44	0.34	0.22	P91	0.61	0.57	P44	0.28	0.40	91	0.42	0.24			
P45	0.34	0.23	P92	0.20	0.22	P45	0.28	0.07	92	0.26	0.57			
P46	0.48	0.52	P93	0.38	0.21	P46	0.26	0.25	93	0.35	0.45			
P47	0.54	0.18	P94	0.33	0.09	P47	0.30	0.44	94	0.47	0.29			

表5 平場・北西法面 柱穴計測一覧表



第18図 平場 柱穴群 断面図 (1:100)



第19図 北西法面 柱穴群 断面図 (1:100)

(2) 出土遺物

今回の調査で、北西法面の炭化層（H層・J層）から遺物（小破片）がコンテナ18箱が出土した。出土した遺物は、かわらけ、古瀬戸の陶器、珠洲の鉢、常滑の壺、祖母懷の壺、瓦器の風炉、中国産の磁器・壺、釘、銅製品の筭・古銭、錫製品、鉄製品、石製品その他などである。これらの出土遺物は、11世紀、14世紀～15世紀頃のものであると考えられる。今回は、実測可能な出土遺物55点を図化し掲載した。

1) 古瀬戸（第20図）

北西法面から11点。1・4は尊式花瓶（後Ⅲ）の口～体部片で、4の口径は11.6cmをはかる。2・10は御目付大皿（後Ⅲ）の口～体部片で、共に明黄褐色灰軸を施し、二次焼成を受けている。3は梅瓶（中Ⅲ）の体部片で、灰緑色灰軸を施す。5は袴腰形香炉（後Ⅲ）の底部片で、底径は5.8cmをはかり、底面に脚が残る。6は平椀（後Ⅲ）の体～底部片・口～体部片で、6の底径は5.8cmをはかる。内面に砂目痕有り、灰緑色灰軸を施す。7は御皿（後Ⅲ）の口～体部片で、口径は10.4cmある。口縁部に緑灰色灰軸を施す。内面に斜位の御目刻みが認められる。8・9は平椀（後Ⅳ古）の口～体部片で、8の口径は9.0cmをはかる。9は、口径7.0cm以上をはかり、二次焼成を受けている。共に灰緑色灰軸を施し、二次焼成を受けている。11は折縁深鉢（後Ⅲ）の口～底部片で口径34.6cm、底径14.6cm、器高8.5cmをはかる。体部は直線的に立ち上がる。外内面口縁部～体中部にかけて、明黄褐色灰軸を施す。底面に3足有する。

2) 中国産陶磁器（第20・21図）

北西法面から10点。12・13・15・17・20は青磁椀の口～体部片である。20は二次焼成を受けており、くすんだ緑色の釉を施す。内外面の細かな貫入がはいる。12の口径は9.8cmをはかる。13の口径は11.1cmをはかり、くすんだ青灰色の釉を施す。15の口径は16.9cmをはかる。二次焼成を受けており、厚めのくすんだ緑色の釉を施す。17の口径は9.0cmをはかり、二次焼成を受けており、くすんだ緑色の釉を施す。14は白磁椀の口～体部片である。口径は12.6cmをはかり、白色の釉を施す。16・19は盤の体部～底部片・口～体部片である。17の高台で径は9.0cmをはかり、厚めの緑色の釉を施す。19の口径は24.6cmをはかる。内面に細線蓮弁紋をもち、厚めの緑色の釉を施す。18は青磁の皿の口～体部片である。口径は16.7cmをはかり、二次焼成を受けており、くすんだ緑色の釉を施す。内外面の細かな貫入がはいる。21は天目茶碗の口～底部片である。口径は10.2cm、高台径は6.2cmをはかる。口縁部はやや内側に湾曲し、黒褐色の鉄軸を施す。

3) 国産陶器（第21・22図）

北西法面から5点。22は常滑の広口壺で、自然釉を施す。23は常滑の壺の肩の一部分である。25は祖母懷茶壺で、口径は10.3cm、底径は16.4cmをはかる。内外面ヘラケズリ、平行沈線が施されている。自然釉を施す。26・27は珠洲のすり鉢である。26の口径は26.5cmをはかる。口縁部に片口を有し、2.8cmの御目は一帯確認。一帯当たりの条数は10条である。27の口径は30.8cmをはかる。口縁部に片口と御目波状文を有し、3.0cmの御目は四帯確認。一帯当たりの条数は12条である。

4) かわらけ（第22図）

北西法面のSB-011柱穴P-02-B層から1点。28はロクロ成形の口～体部片での口径は13.5cmをはかり、ロクロ成成である。形状から11世紀のものと考えられる。

5) 錫製品 (第22図)

北西法面のSA-05柱穴P-5—B層から1点。29は錫製の器である。口径は9.0cmをはかり、錫と銅の合金製の器を丁寧に外面を打ち出して仕上げたものである。かわらけが出土した柱穴群から見つかっている事から、11世紀のものと考えられる。

6) 瓦器 (第21・22・23図)

北西法面から3点。24・31・35は風炉で口～体部片・体部片である。24の口径は24.8cmをはかる。口縁は垂直に立ち肩が大きく張る。ヘラミガキが施され平滑に仕上げられており、口縁上面は水平に切られている。また、口縁部にボタン状突起が貼り付けされている。31・35は共に雷門の印文が二本の隆線の間に施す。いずれも胴張の太鼓形と考えられる。

7) 石製品 (第22図)

北西法面から2点。30は有孔をもつ。有孔の直径は0.7cmで、形状は、楕円形をしている。33は長方視である。長辺17.3cm、短辺11.8cm、厚さ2.0cm、深さ(海)0.5cmをはかる。石材は粘板岩である。

8) 鉄製品 (第22図)

北西法面から1点。32は鎧の飾金具である。直径1.5cmで外円周の0.2cm×0.1cmの長方形が35個均等にくり抜かれている。

9) 銅製品 (第22図)

竪穴状遺構の床面上から1点。34は筭である。長辺17.4cm、短辺1.0cm、厚さ0.2cmをはかり、ほぼ完形品である。

10) 古銭 (第23図)

北西法面から2点。36・37は渡来銭(宋銭)である。36は皇栄通寶、37は嘉祐通寶である。

11) 鉄釘 (第23図)

北西法面から18点。38～55は角釘である。頭部の形状は、身部の幅に比べて頭部が張り出すものは巻頭釘、張出さないものは平頭釘である。角釘の長さは、5.9cm～13.3cmをはかる。

古瀬戸陶器

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
1	SX-05	J層	尊式花瓶	後Ⅲ	2.8以上	3.1以上	0.4	3%	口縁部片。内外面軸。軸
2	SX-05	J層	御目付大皿	後Ⅲ	—	—	4.9以上	5%	体部片。内外面軸。二次焼成。
3	SX-05	H層	梅瓶	中Ⅲ	—	—	3.8以上	5%	体部片。内外面軸。
4	SX-05	J層	尊式花瓶	後Ⅲ	11.6	—	5.4以上	15%	口～体部片。内外面軸。
5	SX-05	H層	袴腰形香炉	後Ⅲ	—	5.8	1.1以上	25%	底部。3足あり。
6	SX-05	J層	平碗	後Ⅲ	—	5.8	7.5以上	35%	体～底部片。内面軸・砂目痕。
7	SX-05	J層	御皿	後Ⅲ	10.4	—	2.2以上	5%	口～体部片。内外面軸。
8	SX-05	H層	平碗	後Ⅳ古	9.0	—	5.8以上	40%	口～底部片。内外面軸。
9	SX-05	H層	平碗	後Ⅳ古	7.0以上	5.0以上	0.6	10%	口～体部片。内外面軸。二次焼成。
10	SX-05	J層	御目付大皿	後Ⅲ	5.6以上	6.0以上	0.5	7%	口～体部片。内外面軸。二次焼成。
11	SX-05	J層	折縁深鉢	後Ⅲ	34.6	14.6	8.5	80%	体～底部片。内面軸。3足あり。

中国産陶磁器

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
12	SX-05	H層	青磁碗	竜泉窯系	9.8	—	4.9以上	15%	口～体部片。内外面軸。
13	SX-05	H層	青磁碗	竜泉窯系	11.1	—	5.0以上	10%	口～体部片。内外面軸。
14	SX-05	J層	白磁碗	竜泉窯系	12.6	—	4.1以上	10%	口～体部片。内外面軸。
15	SX-05	H層	青磁碗	竜泉窯系	16.9	—	5.7以上	15%	口～体部片。内外面軸。二次焼成。
16	SX-05	H層	青磁盤	竜泉窯系	—	12.2	2.0以上	20%	体～底部片。内面軸。
17	SX-05	H層	青磁碗	竜泉窯系	9.0	—	3.0以上	10%	口～体部片。内外面軸。二次焼成。
18	SX-05	H層	青磁皿	竜泉窯系	16.7	—	2.5以上	10%	口～体部片。内外面軸。二次焼成。
19	SX-05	H層	青磁盤	竜泉窯系	24.6	—	5.6以上	10%	口～体部片。内外面軸。内面に細線連弁紋。
20	SX-05	J層	青磁碗	竜泉窯系	—	—	3.9以上	7%	体部片。内外軸。二次焼成。
21	SX-05	H層	天目茶碗	竜泉窯系	10.2	3.8	6.2	65%	口～底部片。外面黒褐色の鉄軸。

国産陶器

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
22	SX-05	H層	常滑広口壺	—	—	—	4.4以上	5%	肩片。自然軸。
23	SX-05	H層	常滑壺	—	—	—	7.1以上	5%	体部片。
25	SX-05	H層	祖母携茶壺	V期	10.3	16.4	40.4	45%	口～底部片。
26	SX-05	J層	珠洲すり鉢	Ⅲ期	26.5	10.0	12.0	20%	口～体部片。片口。
27	SX-05	J層	珠洲すり鉢	Ⅲ期	30.8	—	11.6以上	20%	口～体部片。口縁部櫛目波状。

かわらけ

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
28	SB-011	B層	かわらけ	—	13.5	—	4.5以上	20%	口～体部片。11世紀。ロクロ。

錫製品

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
29	SA-05	B層	器	—	9.0	5.7	2.25	50%	口～底部片。錫製。外面タタキ痕。

瓦器

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
24	SX-05	H層	風炉	第Ⅳ類	24.8	—	5.8以上	10%	口～体部片。ボタン状突起貼り付け。
31	SX-05	H層	風炉	第Ⅱ類	—	—	4.1以上	5%	体部片。雷文。
35	SX-05	H層	風炉	第Ⅱ類	—	—	8.8以上	5%	体部片。雷文。

表6 出土遺物一覧表①

石製品

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考
30	SX-05	B層	加工品	—	2.6	1.3	0.5	50%	孔有り。楕円形。
33	SX-05	B層	長方硯	—	17.3	11.8	2.0	85%	粘板岩。長方形。

鉄製品

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	径 (cm)	—	厚さ (cm)	残存率	備考
32	SX-05	J層	鎧飾金具	—	1.5	—	0.1	100%	円形。外円周に35個均等に長方形にくり抜かれている。

銅製品

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	長さ (cm)	—	厚さ (cm)	残存率	備考
34	SX-05	床直	筭	—	17.4	—	0.2	100%	

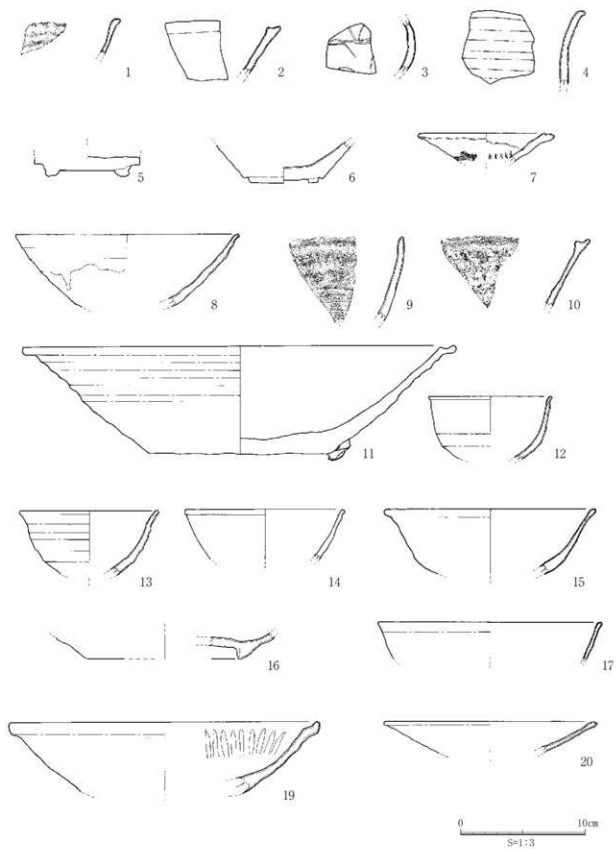
古銭

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	径 (cm)	—	厚さ (cm)	残存率	備考
36	SX-05	J層	皇栄通寶	宋銭	2.45	—	0.1	100%	渡来銭。
37	SX-05	J層	嘉祐通寶	宋銭	2.4	—	0.1	100%	渡来銭。

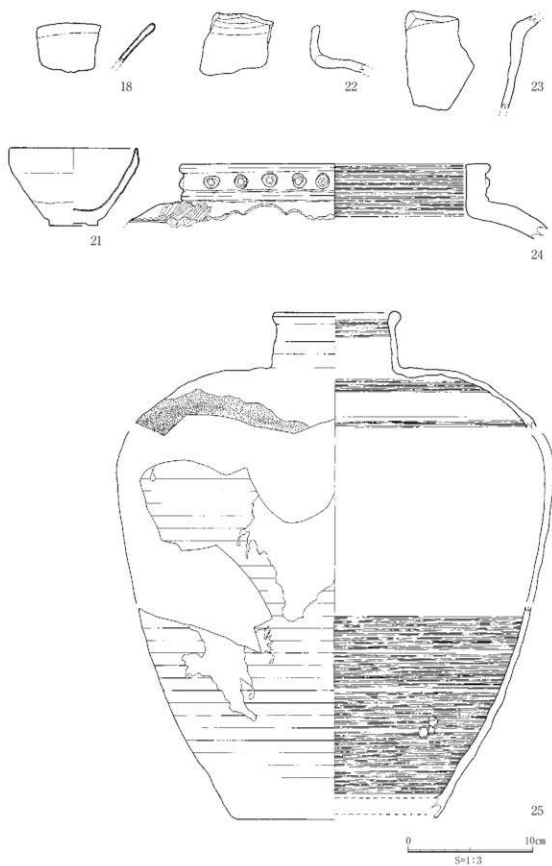
釘

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	長さ (cm)	頭部幅 (cm)	厚さ (cm)	残存率	備考
38	SX-05	H層	角釘	—	6.8	1.4	0.4	95%	先端欠損。
39	SX-05	H層	角釘	—	7.8	0.9	0.6	95%	先端欠損。
40	SX-05	H層	角釘	—	7.5	1.7	1.3	100%	
41	SX-05	H層	角釘	—	5.9	1.1	0.6	95%	先端欠損。
42	SX-05	H層	角釘	—	8.2	1.1	0.7	95%	先端欠損。
43	SX-05	H層	角釘	—	8.3	1.0	0.4	95%	先端欠損。
44	SX-05	H層	角釘	—	7.9	1.1	0.5	95%	先端欠損。
45	SX-05	J層	角釘	—	8.5	1.4	0.5	95%	先端欠損。
46	SX-05	H層	角釘	—	8.8	1.4	0.6	95%	先端欠損。
47	SX-05	H層	角釘	—	9.7	1.3	0.6	100%	
48	SX-05	B層	角釘	—	9.8	1.5	0.8	100%	
49	SX-05	J層	角釘	—	9.6	0.9	0.6	95%	先端欠損。
50	SX-05	H層	角釘	—	9.8	3.2	0.7	95%	先端欠損。
51	SX-05	H層	角釘	—	10.1	1.5	0.8	95%	先端欠損。
52	SX-05	J層	角釘	—	11.0	1.6	0.8	95%	先端欠損。
53	SX-05	J層	角釘	—	11.5	2.1	1.1	95%	先端欠損。
54	SX-05	J層	角釘	—	11.8	1.1	1.4	95%	先端欠損。
55	SX-05	H層	角釘	—	13.3	1.4	0.8	95%	先端欠損。

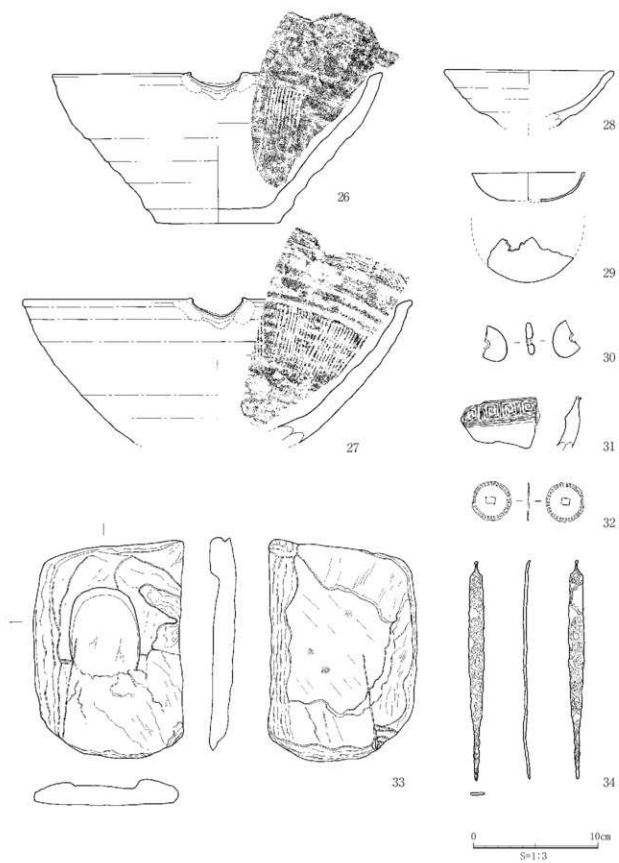
表7 出土遺物一覧表②



第20図 出土遺物① (1:3)



第21図 出土遺物② (1:3)



第22図 出土遺物③ (1:3)



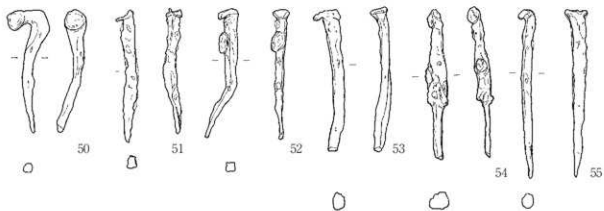
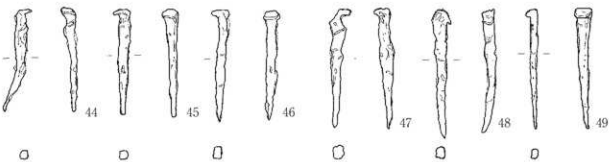
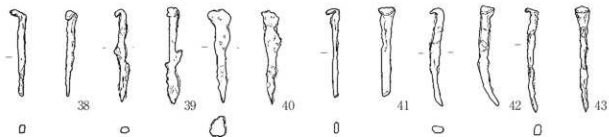
35



36

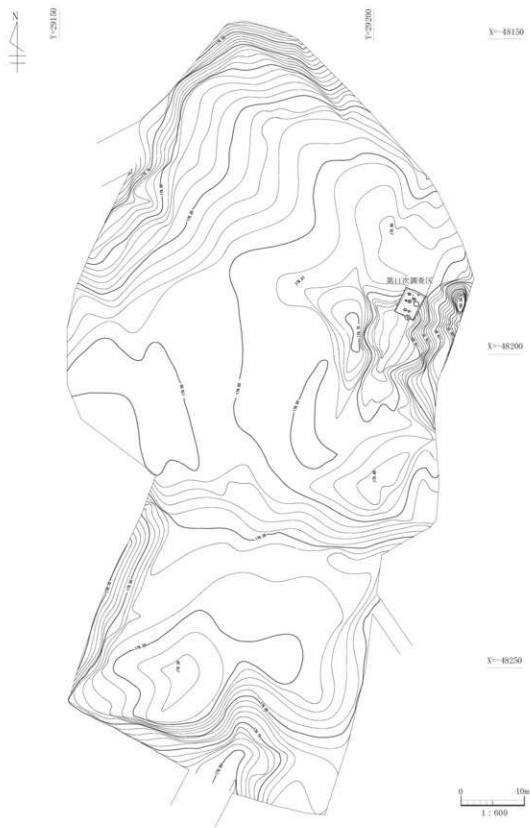


37



0 10cm
S=1:3

第23図 出土遺物④ (1:3)



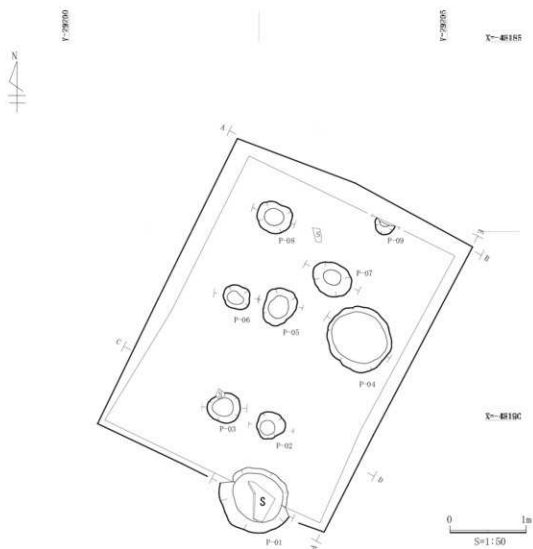
第24図 第11次調査区 全体図 (1:600)

5 第11次調査の概要

位 置 第11次調査区は、高水寺城最頂部の一ノ郭（御殿跡）に位置する。一ノ郭の規模は、東西約60m、南北約130mであり、今回は北東隅、13.8mを調査した。

検出遺構 柱穴 9 口を検出した。

出土遺物 瓦（丸瓦、平瓦） 6 点が出土。



第25図 遺構配置図 (1 : 50)

6 調査の成果

(1) 検出遺構 (第27図・表8)

P-01 柱穴

位置	調査区南壁。	平面形	不整形円形。	重複関係	なし。
掘込面	Ⅱb層。	検出面	黒褐色シルト層。		
規模	上端1.2m～0.85m、下端0.25m～0.19m、深さ0.49mをはかる。				
埋土	A層～G層に大別し、A層・C層は2層に、F層は3層に細分する。A層～F層は黒褐色土～褐色土を主体とする。G層は黄褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし。				

P-02 柱穴

位置	調査区南側。	平面形	不整形円形。	重複関係	なし。
掘込面	Ⅱb層。	検出面	黒褐色シルト層。		
規模	上端0.86m～0.7m、下端0.57m～0.55m、深さ0.43mをはかる。				
埋土	A層～E層に大別する。A層・C層はにぶい黄褐色土～明黄褐色土、B層・D層～E層は黒褐色土～暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし。				

P-03 柱穴

位置	調査区南側。	平面形	不整形楕円形。	重複関係	なし。
掘込面	Ⅱb層。	検出面	黒褐色シルト層。		
規模	上端0.53m～0.42m、下端0.30m～0.25m、深さ0.48mをはかる。				
埋土	A層～E層に大別する。A層はにぶい黄褐色土、B層～E層は黒褐色土～暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし。				

P-04 柱穴

位置	調査区東側。	平面形	楕円形。	重複関係	なし。
掘込面	Ⅱb層。	検出面	黒褐色シルト層。		
規模	上端0.55m～0.43m、下端0.24m～0.19m、深さ0.49mをはかる。				
埋土	A層～E層に大別する。A層・D層～E層はにぶい黄褐色土～黄褐色土を主体とする。B層・C層は黒褐色土～暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし。				

P-05 柱穴

位置	調査区中央。	平面形	不整形円形。	重複関係	なし。
掘込面	Ⅱb層。	検出面	黒褐色シルト層。		
規模	上端0.28m～0.27m、下端0.13m～0.10m、深さ0.50mをはかる。				
埋土	A層～C層に大別する。A層・C層はにぶい黄褐色土～黄褐色土、B層は暗褐色土を主体とする。				
出土遺物	なし。				

P-06 柱穴

位置 調査区西側。 平面形 不整楕円形。 重複関係 なし。
掘込面 II b層。 検出面 黒褐色シルト層。
規模 上端0.47m～0.42m、下端0.22m～0.15m、深さ0.54mをはかる。
埋土 A層～C層に大別する。A層・C層はにぶい黄褐色土～黄褐色土、B層は黒褐色土を主体とする。
出土遺物 なし。

P-07 柱穴

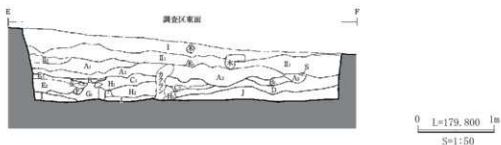
位置 調査区北側。 平面形 不整楕円形。 重複関係 なし。
掘込面 II b層。 検出面 黒褐色シルト層。
規模 上端0.47m～0.40m、下端0.25m～0.22m、深さ0.52mをはかる。
埋土 A層～C層に大別する。A層は2層に細分する。A層～C層は黒褐色土～暗褐色土を主体とする。
出土遺物 なし。

P-08 柱穴

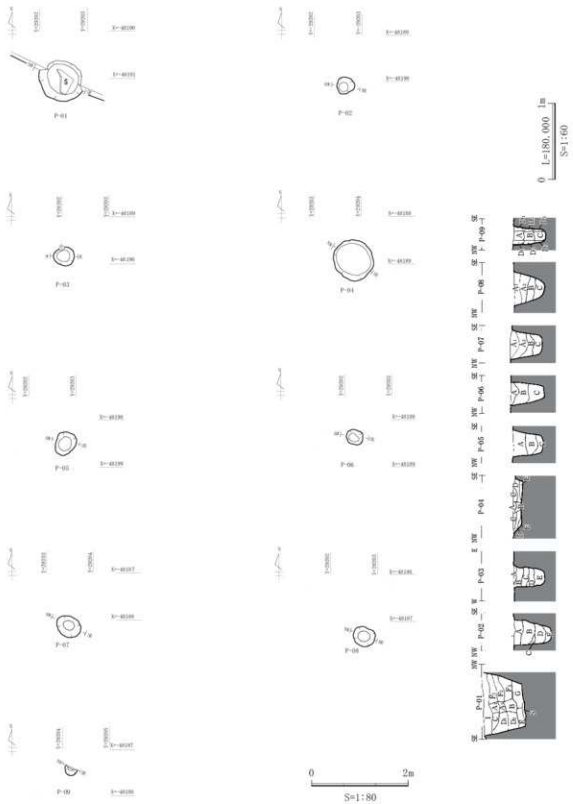
位置 調査区北側。 平面形 不整円形。 重複関係 なし。
掘込面 II b層。 検出面 黒褐色シルト層。
規模 上端0.40m～0.38m、下端0.25m～0.19m、深さ0.30mをはかる。
埋土 A層～C層に大別する。A層は2層に細分する。A層は明黄褐色土、B層・C層は黒褐色土～暗褐色土を主体とする。
出土遺物 なし。

P-09 柱穴

位置 調査区北壁。 平面形 不整円形。 重複関係 なし。
掘込面 II b層。 検出面 黒褐色シルト層。
規模 上端0.40m～0.34m、下端0.20m～0.19m、深さ0.44mをはかる。
埋土 A層～D層に大別する。A層は2層に細分する。A層・D層はにぶい黄褐色土、B層・C層は黒褐色土～暗褐色土を主体とする。
出土遺物 なし。



第26図 調査区 東壁断面図 (1:50)



第27图 P-01~P-09柱穴 平面·断面图 (1:80·1:60)

P-01

II b 層	近世の造成面。
A1 層	暗褐色土を主体に、黒褐色土を粉状～粒状にカーボンを含み締まりは強。
A2 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
B 層	褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
D1 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
D2 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは強。
E 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
F1 層	褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは強。
F2 層	褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
F3 層	褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは強。
G 層	黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

P-02

A 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
B 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
C 層	明黄褐色土を主体に、黒褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
E 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

P-03

A 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
D 層	黒褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
E 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

P-04

A 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に少塵を含み締まりは強。
B 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
C 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
D 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
E 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

P-05

A 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは強。
B 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黄褐色土を主体に、暗褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

P-06

A 層	にぶい黄褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは強。
B 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
C 層	黄褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。

P-07

A1 層	暗褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
A2 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状にカーボンを含み締まりは中。
B 層	黒褐色土を主体に、褐色土を粉状～粒状に締まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

P-08

A1 層	明黄褐色土を主体に、にぶい黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは中。
A2 層	明黄褐色土を主体に、黄褐色土を粉状～粒状にカーボンを含み締まりは中。
B 層	褐色土を主体に、明黄褐色土を粉状～粒状にカーボンを含み締まりは中。
C 層	暗褐色土を主体に、褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

P-09

A1 層	にぶい黄褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状にカーボンを含み締まりは強。
A2 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
B 層	暗褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。
C 層	黒褐色土を主体に、明黄褐色土を粒状～塊状に締まりは強。
D 層	にぶい黄褐色土を主体に、黄褐色土を粒状～塊状に締まりは中。

表 8 P-01～P-09柱穴 埋土注記一覧表

(2) 出土遺物

今回の調査では、瓦6点出土した。今回は、実測可能な出土遺物3点を図化解載した。

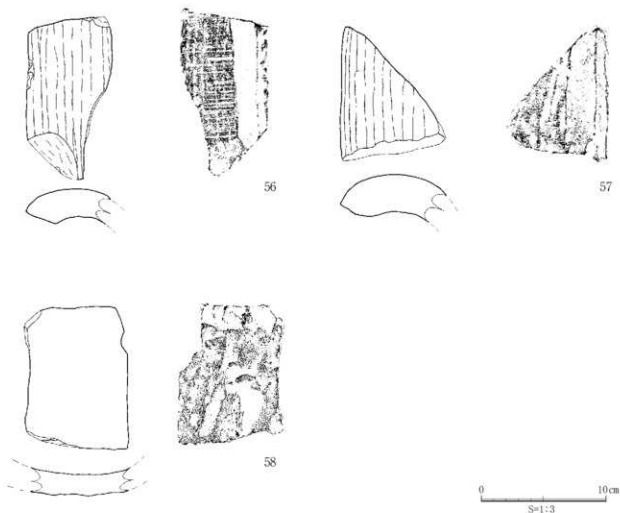
1) 瓦 (第28図)

調査区検出面から出土。56・57は丸瓦で58は平瓦である。焼成は窯瓦で共に欠損部分が多く、玉縁形状コビキ痕等は確認出来なかった。56の凸側はヘラケズリ調整、凹側はタタキ痕が強である。57の凸側はヘラケズリ調整、凹側はタタキ痕が弱である。58の凹側は粗いナデ調整を施す。

瓦

番号	遺構名	出土位置	機種名	分類	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存率	備考
56	—	検出面	丸瓦	—	12.8	—	2.5	20%	凹面タタキ痕。
57	—	検出面	丸瓦	—	9.8	—	3.1	10%	凹面タタキ痕。
58	—	検出面	平瓦	—	10以上	7.5以上	1.9	20%	凹面粗いナデ痕。

表9 出土遺物一覧表



第28図 出土遺物 (1:3)

7 総 括

高水寺城の発掘調査は第9次調査まで行われているが、今回の様に大規模的に調査を実施する事は、初めてのことである。しかし、近代において城山を緑地公園にする際の整備工事で、ほとんどの場所が削平されており、一ノ郭（御殿跡）は一部を除き、保存状態は良好であったが、二ノ郭（若殿屋敷跡）はかなりの部分が削平され、現表土が5cmしかない状態であった。

遺構は第10次調査から、SI-01竪穴状遺構跡1棟、SB-08～SB-011掘立柱建物跡4棟、SA-01～SA-05柱列跡、SX-03池状遺構跡、SX-04南東法面一か所、SX-05北西法面一か所、SK-08・SK-09土坑跡、柱穴218口、第11次調査から、柱穴9口を検出した。

遺物は第10次調査から、古瀬戸陶器、祖母懷茶壺、珠洲すり鉢、瓦器、常滑壺、中国産陶磁器、錫製品、鉄製品、銅製品、石製品、鉄釘、かわらけ、その他、第11次調査から、瓦が出土した。

◎第10次調査

・SI-01竪穴状遺構跡とSA-01～SA04柱列について

竪穴状遺構跡が調査区中央西側隅から検出された。上層は後世の削平で、深さ0.13m～0.18mしか残存しなかった。また、当遺構の中央部・北側に隅丸長方形を持つ土坑跡が2基確認出来たが、今回の調査ではその性格までは判別できなかった。遺構中央部の埋土上面（床直上）から銅製の筭がほぼ完形で見つかったことから、時代は15世紀～16世紀頃と思われる。また使用目的は住居用施設としてではなく、納屋あるいは作業場の可能性が推測される。また、当遺構を囲むように柱列が配置されていた。おそらく竪穴状遺構跡に付属する塼であると考えられ、南東辺が開いていることから、出入り口に当たる箇所と思われる。

・SB-08～SB-010掘立柱建物跡について

掘立柱建物跡が調査区南西側隅から検出された。SB-09・SB-010は中規模なもので、それぞれ4間×3間、3間×1間だが、柱穴の重複も確認出来ることから数回の建替えが行われた事が想定される。また、SB-08は四面庇建物跡である。母屋桁行4間・梁間1間、庇桁行6間・4間（長方形）で、大型の掘立柱建物跡で四面庇の格式の高い造りをしている事から、身分の高い人物の屋敷等の用途が推測される。出土遺物が無かったが、周辺の状況から時代は15世紀～16世紀頃のものと思われる。

・SK-08・SK-09土坑跡について

土坑跡が調査区中央西側隅・北西側隅から検出された。SK-08の検出状況は、土坑の中央に円柱型の桶が埋設されて、その隙間に人為的に地山の土を戻し上から圧をかけて、硬く締まっている。形状・埋土状況から便所遺構もしくは土坑墓の可能性が考えられる。SK-09の上層は後世の削平で、深さ0.38mしか残存していなかった。出土遺物が無かったため、時代等詳細は不明であるが、周辺の状況から15世紀～16世紀頃と思われる。

・SX-03池状遺構について

池状遺構は調査区中央部から検出された。上層は後世の削平により、深さ0.12m～0.10mしか残存していなかった。底面はグライ化した埋土が少し混じるが、長期間にわたって水が溜まっていたためには無いと思われる。出土遺物が無かったため、時代等詳細は不明である。

・SX-04南東法面について

南東法面は調査区南東隅から検出された。一部調査区外だったが、記録のため、一部拡張し調査を行った。

法面の傾斜は38°をはかり、埋土のⅡ層は重機により削平された土（地山塊と礫交じりの土）が多量に堆積していた。また、3ヶ所にトレンチ（①～③）を入れ、各場所の法面の肩を確認することができた。トレンチ①法面の肩から現在の法面の肩まで8.4m、トレンチ②法面の肩から現在の法面の肩まで10m、トレンチ③法面の肩から現在の法面の肩まで20mと北側に行くほど幅が広がる。この結果から、当時の曲輪面は現面積の約2/3程度の広さであったと考えられる。

・SX-05北西法面、SB-011掘立柱建物跡とSA-05柱列について

北西法面は調査区北西側から検出された。法面の傾斜は32°をはかり、2.45m下ると平場が5.5m続き、急激に下方の曲輪面に達する形状をしていた。また、埋土のⅡ層は重機により削平された土（地山塊と礫交じりの土）が多いが、南東法面の堆積量の約1/10程度で、北西法面には削平された土はほとんど押されていない事がわかった。

埋土のH層・J層は炭化層で、その層内に大量の古瀬戸陶器、鉄釘、中国産磁器、珠洲鉢、祖母懷茶壺、瓦器、その他が出土した。出土遺物から室町時代（15世紀頃）以降のものと思われる。

法面の中腹に5m幅の平場が現存し、柱穴が124口検出された。掘立柱建物として認識出来たのは1棟のみで、4間×1間（長方形）である。その東側に柱列が平行に構築されており、おそらく上面からの土砂及び雨水等を防ぐための塼と考えられる。時代は柱列(SA-05)P-5から鋳製品、掘立柱建物跡(SB-011)P-02から11世紀のものと思われるかわかけ片が出土していることから、11世紀頃と思われる。

◎第11次調査

・P-01～P-09柱穴について

今回の調査範囲は4.2m×3.2mと極狭い所の調査であった。柱穴は9口確認出来たが、その内のP-01・P-04が掘立柱建物跡のものと考えられる。P-01の底面から地下式礎石と思われる割石が見つかった。また、地下式礎石は確認が出来なかったが、P-04から柱あたり痕を確認し、P-01の径とはほぼ同じ規模の柱穴がP-04と対応する。柱間寸法は2.58m（8尺6寸）をはかり、母屋桁行・梁間調査区外に伸びているものと推測される。

まとめ

第10次調査区については、後世の削平及び公園造成等で遺構等の残存状況は芳しくなかったものの、曲輪第11次調査は狭小な範囲での調査だったため、掘立柱建物跡の存在を指摘するにとどまった。

曲輪の形状（若殿屋敷跡—平場）や時代等について幾つか明らかとなった。

まず、新波氏の頃の二ノ廓は、調査区南東からの法面の出土により現在の約2/3程度の面積であった（南東法面、トレンチ①・②・③より）ことがわかった。また、南東法面の肩から現在の法面の肩までは約8m、トレンチ③で確認した法面の肩から現在の法面の肩までは20mで10m以上の差が認められる。この差から、二ノ廓は調査区中央から北側にかけて、一段高い構造を持っていた可能性が考えられる。つまり、後世の削平によってこの構造物を削り、その土を東側法面に押し出したと考えると、法面の幅の差と第10次調査区南西隅からしか遺構が検出されなかったことの説明がつく。

加えて、北西法面の炭化層から、大量の古瀬戸陶器、珠洲すり鉢、中国産陶磁器、鉄釘、瓦器、そ

の他が出土しており、大半の遺物に二次焼成（被熱）箇所が認められる。おそらく火災等で家屋諸共焼けてしまい、その残骸を北西法面に投げ捨てたと思われる。炭化層は間を挟んで2層確認されたことから、少なくとも2度の火災があったことが推測される。

第10次調査で特筆すべき点は、北西法面（地山—安山岩）の中腹の平場から掘立柱建物と柱列などが検出され、その柱穴から11世紀のかわらけ片、錫製器片が出土したことである。これらの遺物は斯波氏（15世紀～16世紀）の時代と時期差があるので、高水寺域以前に何らかの施設が当地に存在していたことの裏付けとなる。「吾妻鏡」文治五年九月九日条には、「高水寺」についての記述があり12世紀の段階では大規模な寺院が存在したとされている。高水寺の範囲等は詳らかではないものの、高水寺域の範囲と重複していたと推測できるため、今回の北西法面地山から検出された遺構は、高水寺または高水寺以前に存在した施設の付属施設である可能性が指摘できる。

これまでの高水寺域の調査で出土した遺物は少量であったが、第10次調査では狭いエリアから一括して遺物が発見されたことに加え、高水寺または高水寺以前の可能性がある遺構が発見された。斯波氏や高水寺域を研究する上での貴重な資料と考えられ、大きな成果といえる。

〔引用・参考文献〕

- 1995 神岡町教育委員会 富山大学人文学部考古学研究室「江馬氏城館跡 -下館跡発掘調査報告書Ⅰ-」
- 2000 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター「篠館跡発掘調査報告書 -一般国道283号仙人峠道路改築事業関連遺跡発掘調査-」
- 2007 二戸市教育委員会「史跡九戸城跡 -平成16年度史跡九戸城跡環境整備事業発掘調査略報-」
- 2011 宗教学法人長善寺 盛岡市教育委員会「館野前遺跡 -寺院建築に伴う緊急発掘調査報告書-」
- 2012 遠野市教育委員会「鍋倉城本丸跡発掘調査報告書」
- 2013 宗教学法人天昌寺 盛岡市教育委員会「里館遺跡 -供養塔および駐車場造成に伴う緊急発掘調査報告書-」
- 1976 紫波町教育委員会「二日町古館遺跡第1次・第2次発掘調査報告書 -岩手県紫波郡紫波町所在-」
- 1994 紫波町教育委員会「紫波町の遺跡 町内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ」
- 2003 紫波町教育委員会「町内遺跡発掘調査報告書Ⅰ」
- 2004 紫波町教育委員会「町内遺跡発掘調査報告書Ⅱ」

写 真 图 版



第1図版 高水寺城空撮【国土地理院（昭和28年5月米軍撮影）】



第2図版 高水寺城空撮（平成23年6月撮影）



第3図版 第10次調査区空撮



第11次調査区全景（西側から）



SB-08～SB-010全景（北側から）



SB-08～SB-010全景②（東側から）



SB-011、SA-05全景（東側から）



SI-01、SA-01～SA-04全景（東側から）



SI-01断面（南側から）



SK-08断面①（東側から）



SK-08断面②（東側から）



SX-04全景（南側から）



SX-04断面（南側から）



SX-05南側検出状況（南側から）



SX-05断面（北側から）



SX-05出土遺物状況①



SX-05出土遺物状況②



SX-05出土遺物状況③



SX-05出土遺物状況④



SX-05出土遺物状況⑤



SX-05出土遺物状況⑥



SX-05出土遺物状況⑦



SI-01出土遺物状況⑧



SX-04出土遺物状況⑨

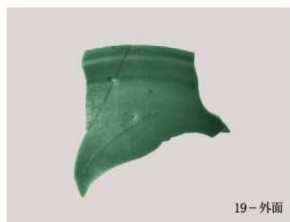


SX-05作業風景













25-1

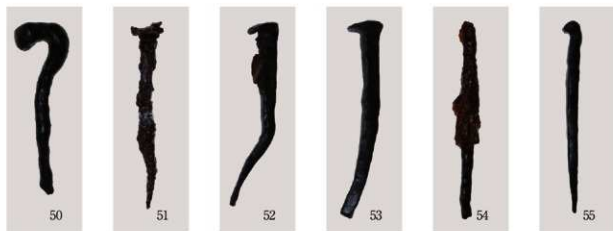
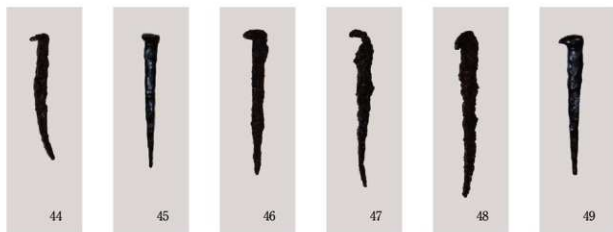
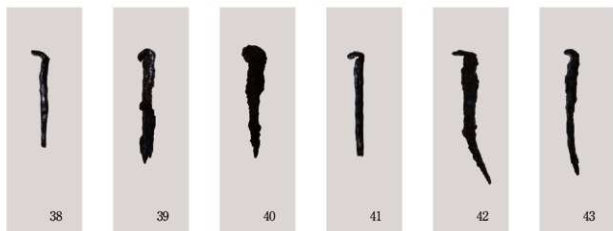


25-2



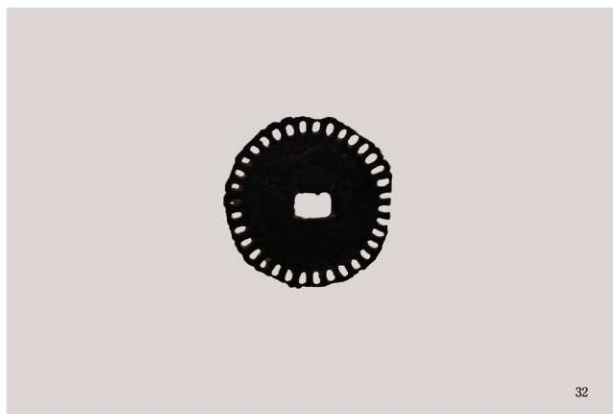
25-3







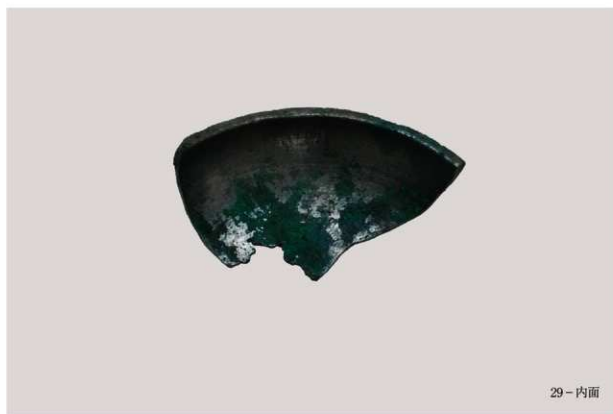
28



32



29-外面



29-内面



33



34



第11次調査区 断面①（南側から）



第11次調査区 断面②（西側から）



P-01 断面（北側から）



P-02 断面（南側から）



P-03 断面 (南側から)



P-04 断面 (南側から)



P-05 断面（南側から）



P-06 断面（南側から）



P-07 断面（南側から）



P-08 断面（南側から）



P-09 断面（南側から）



作業風景





第33図版 弘化三年（1846）二日町新田繪図

抄 録

ふりがな	こうすいじじょう だいじゅうじ・だいじゅういちじはつちようさほうこくしょ							
書名	高水寺城 第10次・第11次発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	紫波町埋蔵文化財調査報告書2014							
シリーズ番号								
編集者名	鈴木 賢治							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森24-2							
発刊年月日	平成27年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうすいじじょう 高水寺城 第10次調査	いわてけんしほごん 岩手県紫波郡 紫波町二日町 字古館地内	03321	LE67-0154	39° 32' 03"	141° 09' 45"	20130609 ～ 20130823	2210㎡	新古館配水池 整備事業
こうすいじじょう 高水寺城 第11次調査	いわてけんしほごん 岩手県紫波郡 紫波町二日町 字古館地内			39° 33' 55"	141° 10' 23"	20131106 ～ 20131118	138㎡	愛宕神社の 建替え工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
こうすいじじょう 高水寺城 第10次調査 第11次調査	城館	奈良時代 (11C) 室町時代～ 戦国時代 (15C～16C)	竪穴状遺構跡 掘立柱建物跡 土坑跡 池状遺構跡 法面 柱穴	古瀬戸陶器 珠洲すり鉢 中国産磁器 鉄釘 錫製品 かわらけ	吾妻鏡掲載 盛岡南部氏関連遺跡			

高水寺城
第10次・第11次発掘調査報告書

2015年3月31日

編集・発行 紫波町教育委員会
〒028-3305 岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森24-2
TEL 019-672-3362 FAX 019-672-1553

印刷 永代印刷株式会社
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡一丁目8-30
TEL 019-636-0011 FAX 019-636-0099
